

第10回

越谷市教育委員会議事録

令和元年（2019年）8月8日

臨時会

令和元年第10回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 令和元年8月8日（午前の部）
招集の場所 第3委員会室
開閉会日時 開会8月8日 午前 9時30分
閉会8月8日 午前11時57分

出席委員

教 育 長 吉 田 茂

委 員 堀 川 智 子

委 員 荒 木 明 子

欠席委員 な し

説明のため会議に出席した者の職氏名

教育総務部長 永 福 徹

教育総務課長 渡 辺 真 浩

教 育 長
職務代理者 野 口 久 男

委 員 進 藤 秀 子

委 員 渡 辺 律 子

学校教育部長 岡 本 順

学校教育部
副 参 事 兼
指 導 課 長 山 口 徳 明

学 校 教 育 部
副参事兼教育
センター所長 鈴 木 雅 彦

学 務 課 長 佐々木 清

指導課調整幹 菊 池 邦 隆

職務のため会議に出席した者の職氏名

教育総務課
副 課 長 並 木 智 史

令和元年第10回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 令和元年8月8日（午後の部）
招集の場所 第3委員会室
開閉会日時 開会8月8日 午後 1時00分
閉会8月8日 午後 4時16分
休憩 午後 3時05分～午後 3時15分

出席委員

教 育 長 吉 田 茂	教 育 長 野 口 久 男
委 員 堀 川 智 子	職 務 代 理 者 進 藤 秀 子
委 員 荒 木 明 子	委 員 渡 辺 律 子

欠席委員 な し

説明のため会議に出席した者の職氏名

教育総務部長 永 福 徹	学校教育部長 岡 本 順
教育総務課長 渡 辺 真 浩	学 校 教 育 部 副 参 事 兼 指 導 課 長 山 口 徳 明
	学 校 教 育 部 副 参 事 兼 教 育 セ ン タ ー 所 長 鈴 木 雅 彦
	学 務 課 長 佐々木 清
	指 導 課 調 整 幹 菊 池 邦 隆

職務のため会議に出席した者の職氏名

教 育 総 務 課 副 課 長 並 木 智 史

	議 事	て ん 末
議 事 状 況	議 案	
	・第37号議案 令和2年度使用小中学校教科用図書の採択について	原案可決

◎開会の宣告

吉田教育長 それでは、これより 8 月の臨時教育委員会会議を開会いたします。

本会議に関し、14 名の方から傍聴許可願が提出されておりますので、許可します。また、会議中に許可願が提出された場合は、同様に許可いたします。

(午前 9 時 30 分)

◎第 37 号議案 令和 2 年度使用小中学校教科用図書の採択について

吉田教育長 それでは、8 月 1 日に行われた 8 月臨時教育委員会会議において継続審議となっておりました第 37 号議案「令和 2 年度使用小中学校教科用図書の採択について」審議を行います。

今回の令和 2 年度使用小中学校教科用図書の採択について、改めて指導課長から説明をお願いします。

指導課長。

山口指導課長 今年度採択する小学校用教科用図書は 14 種目でございます。今回、約 10 年ごとに改訂される文部科学省が定める教育課程の基準、学習指導要領が改訂されたことを受けて、教科用図書が変更されることとなりました。したがって、令和 2 年度からの小学校新学習指導要領全面実施に伴い、道徳を含めた全ての教科で採択を実施いたします。

なお、道徳に関しましては、2 年前に採択を行い、特別の教科として先行実施しておりますが、昨年度新学習指導要領にのっとり改めて検定を行っておりますので、他の教科と同様に採択を行います。

なお、採択された教科用図書につきましては、令和 2 年度から 4 年間の使用となります。

中学校教科用図書につきましては、昨年度採択した道徳を除いた 16 種目でございます。今回義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条及び同法施行令第 15 条の規定に基づき、道徳を除いた教科用図書の採択が 4 年を経過することから実施するものでございます。

なお、令和 3 年度から中学校の学習指導要領が改訂され、中学校新学習指導要領全面実施となることから、採択された教科用図書につきましては、令和 2 年度から 1 年間の使用となります。中学校新学習指導要領全面実施に伴う教科用図書の採択につきましては、令和 2 年度に実施する予定でございます。

採択の手順につきましては、越谷市立小中学校使用教科用図書採択事務要領に基づいて行います。初めに、越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会委員より選定資料に基づく報告を行い、続いて教育長及び教育委員の皆様からの質疑にお答えいたします。その後、教育長及び教育委員の皆様でご協議いただいた後、採択をお願いいたします。

以上でございます。

吉田教育長 審議に入る前に委員の皆様にお諮りいたします。

採択の方法ですが、種目ごとに全部の教科用図書発行者について、私及び委員がそれぞれ５段階で評価した上で順次無記名で投票し、評価点数の総合点が最も高い教科用図書発行者を採択することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ここで傍聴人の方にお知らせいたします。

傍聴の心得にあるように、議案の進行を妨げるような言動はお控えいただきますようお願いいたします。静粛な会議の進行にご協力をお願いいたします。

小学校英語に係る教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 英語の教科用図書について、選定委員より選定資料の報告をお願いします。

原田選定委員（武蔵野中校長） では、報告いたします。

東書ですが、内容において知識及び技能が習得できるようにするための工夫につきましては、歌やチャンツで基本的な語彙を知る活動があり、「Small Talk」、「Your Turn」などで学習した内容を使いながら、相手とやりとりして自分の思いを伝える「Enjoy Communication」が單元ごとに設定されております。

思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫につきましては、「Check Your Steps」で学習内容を振り返り、伝える力を確かめることができるようになっております。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫につきましては、「Enjoy Communication」でコミュニケーションにおける工夫を取り上げ、児童が相手意識を持って活動に取り組めるように工夫されております。

ユニットは、５、６年生とも８個あり、単元を通して５つの領域を学習できるようになっております。主語、述語が色分けされており、児童から見て語彙が何を意味しているのか理解しやすいように書かれております。実生活に即した場面が設定されており、世界の様子について知る活動が多く盛り込まれております。

資料につきましては、シンプルで、会話の様子が大きく掲載されており、写真が多くあります。また、付録の絵カードは、一枚一枚ミシン目があります。「Picture Dictionary」という語彙の付録もございます。

表記・表現につきましては、英単語には絵を添えてあったり、選択する部分は色をつけられており、主語、述語に当たる単語にそれぞれの色があり、わかりやすくなっております。活動は、紙面上の定位置に配置されており、文字が大き目で書き込みスペースがゆったりしています。他教科との関連につきましては、各ユニットの「Over the Horizon」で必ず他教

科との関連の資料があり、関連マークもございます。

開隆堂です。知識及び技能が習得できるようにするための工夫につきましては、基本的な語彙や表現を音声で知る「Let's Listen」、「Let's Chant」、「Let's Sing」があります。学習した語彙や表現を使ってプロジェクトもあり、そこでの活動で表現を豊かにするように設定されております。

思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫につきましては、「Let's Listen」や「Let's Play」等で、新しい語彙や表現を繰り返し学習し定着を図り、「Let's Try」につなげております。その「Let's Try」は、伝え合う活動で構成されております。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫につきましては、発表するときや聞くときのポイントが示されており、児童が相手意識を持って活動することができるようになっております。

レッスンは、5年生が9個、6年生が11個あり、単元を通して5つの領域を学習できるようになっております。キーセンテンスの部分にはアンダーラインが引かれ、その部分を変えることにより、言えたり書けたりできるようになっています。国旗や星座などが盛り込まれております。

資料といたしましては、「Let's Play」では実際の会話の様子がイラストで表され、辞書のような端っこの爪でページを探しやすくなっています。巻末の単語リストは、アルファベット順で文字と日本語が書かれております。

表記・表現につきましては、児童が選択する部分には線が引かれており、活動の補足説明や補助発問の注意点などがキャラクターによって説明されています。どれも1ページ1時間配当での表記となっております。他教科とのかかわり等につきましては、5年生は身近な社会、6年生には世界とのかかわりについて学習する構成になっており、他教科との関連マークはレッスンの題名の横に1文字で記載されております。

学図です。知識及び技能が習得できるようにするための工夫としましては、「Sounds and Letters」でアルファベットの文字と音を理解できる工夫がされております。発表する「Project Time」が、年2回設定されております。

思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫につきましては、各単元内の活動は聞く、聞いて繰り返し言う、話す、読む、書くという構成になっています。各単元末には、伝え合う活動が設定されております。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫につきましては、ページのクラスルームイングリッシュ等で、励まし、相づち等の表現が紹介されています。

レッスンは、5、6年生とも10個あり、小単元の中で5つの領域をバランスよく学習できるように設定されております。文字につきましては、なぞってから自分で書く場面が多くあります。

資料につきましては、各レッスンの最初は必ず見開きのイラストになっています。

振り返りは、単元の初めに15分刻みの過程を確認することができます。

表記・表現につきましては、レッスンの前の「P r e - L e s s o n」では、イラストともに、視覚的にわかりやすく説明してあります。レッスンの扉ごとに、学習の流れが1ページを使って示されています。他教科とのかかわりにつきましては、各レッスンの最後に他教科の文化に関連する学習が組み込まれていて、他教科関連マークもございます。

三省堂です。知識及び技能が習得できるようにするための工夫につきましては、「S o u n d C h a n t」で文字と音声について理解できるようにしてあり、「L i s t e n & T a l k」は学習した語彙や表現を使ってやりとりを行っています。自分の思いを伝える「T a l k t o F r i e n d s」も設定されております。

思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫につきましては、学習の見通しを持ち、表現活動を行う構成になっております。ステップでは、ペア・グループから全体活動になるように、そして「J u m p」で、学んだ語彙や表現を場面に応じた活用するものが設定されております。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫につきましては、「T i p s !」では他者への配慮を促す表現が紹介されていて、学びのプロセスがマークで可視化されております。

レッスンは、5、6年生とも7個あり、小単元の中で5つの領域をバランスよく学習できるように設定されております。言語活動のまとめとして、書くなどの文についての学習ができるようになっております。

資料につきましては、各レッスンの最初のページに「P a n o r a m a」があり、イラストが描かれ、たくさんの名詞や動詞に触れることができるようになっております。巻末の単語リストは、カテゴリー別にイラストと英単語によって表記されております。

表記・表現につきましては、ページの下部には英語表現や教材の内容に関する補足用語が示され、ページ内に活動の仕方に関する補足や補助発問が日本語で示してあります。レッスンの紙面構成は一定となっており、各活動の手本は原則として上または左に示され、書き写しやすいように配慮されております。他教科との関連等につきましては、さまざまなものが取り入れられておりますが、6年生の「ことば」のおはなしは、言語の役割について説明してあり、状況と相手の気持ちを考え、伝え合うことが学べるようになっております。

教出です。知識及び技能が習得できるようにするための工夫につきましては、語彙や表現を声に出す活動や聞くための活動が設定されております。基本的なやりとりをする「A c t i v i t y」、発表等に取り組む「F i n a l A c t i v i t y」が設定されております。

思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫につきましては、見て概要を捉え、聞いて慣れ親しみ、考えや思いを伝える活動へと段階的に進む構成です。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫につきましては、コミュニケーションをとるときに大切にしたいことが冒頭で紹介され、他者へ配慮したコミュニケーションがとれるように

促されております。

レッスンは、5、6年生とも9個あり、単元を通して5つの領域を学習できるようになっています。

資料につきましては、各レッスンの導入に他国の生活の写真など映像を見て考えるところから学習が始まるようになっております。引き出しの日本地図があり、イラストと写真で地域の特徴を示しております。付録の絵カードは、一枚一枚ミシン目があります。

表記・表現につきましては、「S o u n d s & L e t t e r s」で気をつけて聞く部分の色を変えたり、線をつけたりしています。他教科との関連につきましては、地図記号や世界地図、日本地図を使つての学習があり、国語ではお手紙の原文や外来語なども紹介されています。

光村です。知識及び技能が習得できるようにするための工夫につきましては、「S t e p」に声に出すチャンツ等があります。欄外には、アルファベットの文字と音を理解できるコーナーが設定されてあります。「L e t ' s p l a y」で語彙や表現になれ親しみ、伝え合う「L e t ' s t r y」につなげてあります。

思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫につきましては、各単元で聞くから話すへ、そして読む、書く活動へと進んでいく構成になっております。最後には、自分の考えや思いを伝え合う活動が設定されております。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫につきましては、「R e s p o n s e」で他者に配慮する表現が紹介され、相手意識を持つ活動につなげてあります。

ユニットは、5、6年生とも9個あり、小単元の中で5つの領域をバランスよく学習できるようになっています。学習のまとめとして、各活動が設定されています。

資料につきましては、各ユニットの見開きのイラストに多くの英単語が配置されております。絵カードは、トランプ大で大き目です。単語リストは、イラストと英単語で情報量が多いです。

表記・表現につきましては、各ページの下に発音、英単語に関する補足説明などがあり、情報の種類が豊富です。他教科との関連等につきましては、「しおり」という小見出しで、教科を確認できるようになっております。

啓林館です。知識及び技能が習得できるようにするための工夫としましては、文章の一部を入れかえて、文構造を理解できるようになっています。基本的な語彙や表現を知る「L i s t e n a n d D o」等の活動もあります。

思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫につきましては、提示された場面でどのような英語で伝えればよいのかを考え、表現する活動「R E V I E W」が設定されております。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫につきましては、その「R E V I E W」では、相手の話したことや気持ちを配慮して自分の気持ちの意見を伝える活動を設定されており、相手意識を持ったやりとりをする活動が設定されております。

ユニットは、5、6年生とも8個あり、小单元の中で5つの領域をバランスよく活動、学習できるように設定されております。言語活動のまとめとして、文についての学習ができるようになっています。

資料につきましては、ユニットの最初の見開きのページのイラストに、さまざまなものや動作を見つけることができるようになっております。絵カードは、一枚一枚ミシン目があります。

表記・表現につきましては、音声についてはチャンツでアクセントの部分に赤丸をつけて示しています。他教科との関連につきましては、各教科で使用する道具の紹介などが載せられております。

以上です。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず初めに選定委員会としてどの教科書を推薦するか、ご説明をお願いします。

齋藤選定委員長（増林小校長） 選定委員会では、協議内容、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が7種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍、75点、9番、開隆堂、60点、11番、学校図書、56点、15番、三省堂、75点、17番、教育出版、56点、38番、光村図書、52点、61番、啓林館、49点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、75点の三省堂、72点の東京書籍、60点の開隆堂を推薦いたします。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 初めての教科書選定となるのですけれども、選定委員会のほうで特に協議した点は何でしょうか。

原田選定委員（武蔵野中学校長） いろいろ協議をいたしました、大きく分けると3つに分けられます。

1つ目は、3、4年生になる外国語活動との接続についてです。児童にとって、教科書という形で英語が入ってくることに関しては抵抗が予想されますが、どの教科書も使っている「We Can!」に近い図柄も多く、書くことも学習内容として入ってきていますが、教科書の中でなぞ

るということになっていきますので、教科書によって多少の違いはありますが、急に難しくなるというような印象はないと思います。

2つ目につきましては、QRコードについて話題が出ました。どの教科書も、QRコードを使って音声を聞くなどの学習ができるようになっていました。児童によっては、自宅で予習や復習に使用したり、あるいは授業の中で大型テレビやタブレットなどを使ってQRコードを写して個別学習ができるようになるということも可能だというような話題が出ました。

3つ目ですが、中学校との関連についてということで話題が出ました。中学校と同じ教科書のほうがよいのかというようなことも出ましたが、どの教科書も基本的に「We Can!」や「Let's Try!」のつくりを受けており、どの教科書を使ったとしても影響が出るというようなことはないというふうに思われます。

以上です。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 学校の調査報告書ではどの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

原田選定委員（武蔵野中学校長） 学校からの推薦では、三省堂が13票、続いて東書の11票でした。

推薦理由といたしましては、三省堂では内容が身近な場面に合わせて行える、簡単で児童にとって取り組みやすいものになっていた。短文の意味を想像できるようにイラストが描かれ、児童の思考の助けとなるように工夫されているなどが記載されてありました。

東書では、活動内容がステップ1から3に分けられていて活動しやすい。ワークも充実していて、教科書に書き込みながら学習できるので、便利でよい。絵が豊富で、吹き出し中心の紙面構成であり、場面設定が具体的でわかりやすい。子ども相互の活動を設定しやすいなどの記載がありました。

以上です。

吉田教育長 よろしいですか。

他にございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 小学校の英語が教科化されて、初の教科書採択になりますが、子どもたちが何かできるようになったのか振り返ることができる、いわゆる「CAN-DOリスト」について、先ほどの選定資料のご説明の中にもございましたけれども、各社でどのような違いがありますでしょうか。

原田選定委員（武蔵野中学校長） 「CAN-DOリスト」は、各学年の目標に照らして、聞く、話す、読む、書くの技能について、することができるという形で設定されているものです。それは、

中学校の英語で設定されているものです。小学校の場合は、中学校への接続として「CAN-DOリスト」をどのように設定するかは、各社多少違いがあります。

東書、学図、教出の3社につきましては、教科書の中には「CAN-DOリスト」のようなものは掲載されておりませんが、開隆堂は最初に各レッスンで何ができるようになるかがリストで掲載されています。三省堂は、5、6年生ともに、最後のほうに12の項目のリストがあります。技能による工夫はされていませんが、どの活動で何ができるようになるかが示されています。光村は、5年生が13項目、6年生10項目のリストが最初のほうに掲載されています。それぞれの項目について、教科書のどこで学習するかが示されていて、啓林館は5、6年生ともに13項目のリストが最後のほうに掲載されています。

以上です。

吉田教育長 よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他になれば質疑を終わります。

次に、協議に入りますが、その前に小学校英語の教科用図書については初めての採択ということもあり、私のほうから少しお話をさせていただきます。現行の学習指導要領の小学校の外国語活動では、「コミュニケーションの素地となる資質・能力を育む」がその目標とされ、外国語の音声や表記になれ親しむ活動が中心となっておりました。しかし、小学校の外国語活動と中学校の外国語科教育とのギャップが取り沙汰され、円滑な接続が図れていないとの指摘もあったように思います。こうしたことから、新学習指導要領では小学校英語を教科として新設し、小学校中学年での「聞く、話す」を中心とする外国語活動を経て、高学年でこれに「読む、書く」を加えて、「コミュニケーションの基礎となる資質・能力を育む教育」を教科の目標として、総合的、系統的に行うとともに、中学校への円滑な接続を図るとしておりますが、今度は英語に対して苦手意識を持つ子どもを小学校段階でつくってしまわないかと心配する向きも出てきております。

こうした点について、学習指導要領では、語彙などの習得に偏ることなく、これらを実際のコミュニケーションを通して活用し、それを繰り返すことによって、外国語や、その背景にある物事を理解し、相手に配慮して、目的や場に応じてコミュニケーションするといった資質や、また他の能力とあわせて育成する必要があるというふうにしております。したがって、こうした点からもどのように教科用図書が工夫されているかを見ていく必要があろうかと思えます。

それでは、協議を行います。小学校教科用図書は、今回文科省が定める教育課程の基準、学習指導要領が改訂されたことを受けて教科用図書が変更されることになったことから、選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思えます。

まず、調査の観点1、内容、学習指導要領の教科の目標とのかかわりについてご意見ございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 どの教科書も多少の違いはあるにせよ、まず聞くことから入って、話す、読む、書く、最終的には発表するというところに結びついていくのだと思いますけれども、こういった流れで構成されていました。英語を学ぶ入り口として、3、4年生で外国語活動の経験を踏まえながら、まず耳で聞くことから学習に入って、ゲームしたりクイズに答えたり、あるいは歌を歌ったりと、子どもたちが英語を好きになるような工夫が随所にあるなと感じました。

知識、技能が習得できるようにするための工夫として、その単元の短文の基本的な表現を繰り返し聞いたり、チャンツを取り入れたりしていました。楽しみながら、何度も聞いたり、リズムに乗って声に出したりすることが大切なのだなと感じました。

以上です。

吉田教育長 ただいまのご意見について、あるいは別なことでもいいかと思いますが、ご意見ございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、先ほどの説明にもありましたけれども、色々な話が出ていますけれども、今回教科として5、6年生がスタートするに当たって、やはり領域が5領域ということで、聞くこと、読むこと、そして話すことが、やりとりと発表の二つに分かれて、そして書くこと。教育長のほうから話があったように、「書くこと」については若干心配する向きもあるのかなと思いますが、各会社の教科書を見ていると、それについては大分配慮されていて、小学生が英語を書くことに対して無理なくできるように工夫されているなという印象を全体的に持ちました。今までローマ字を書いたりするということは、たしか3年生から入りますよね。その流れを意識しながら、書くことについても無理なく導入されるような工夫はあるなというふうに思いました。4線とか、こういうノートの線を用意したりして書き写すことから入っているのも、そのあたりについては、最後は先生方の指導性が問われるのかなという印象は持ちました。余り書かせて覚えろとなると、英語嫌いを早目につくってしまうという懸念も出てくるのかなと思うのですが、最終的にはやはり教師の指導の方法によって、楽しく書く活動も取り入れてもらえればいいなというふうに思いました。

以上です。

吉田教育長 渡辺委員。

渡辺委員 野口委員と同じ意見なのですが、各教科書とも、例えばマイブックとかゲームカードとか、巻末の資料に楽しく書き込めるような工夫がされていて、これならば遊び感覚で、子どもたちも書くということに慣れるのではないかなというふうに感じました。

以上です。

吉田教育長 他にございますか。

一応協議1として、内容とのかかわりについてのご意見を伺っておりますけれども、他にも資料とか、あるいは表記・表現等にもかかわってくることもあろうかと思しますので、それらも含めてということでよろしいかと思っておりますけれども、ご意見ございましたらお願いいたします。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、推薦の声が一番に上がっている三省堂を少し見せてもらったのですけれども、特徴としてやはり各会社ともユニットとかレッスンという名前で1つの單元ごとにまとめた教科書が多い中、三省堂は1年間に大きな単元を3つというつくりになっているかと思うのです。見ていただければわかるかと思うのですけれども、それが特徴かなと。1つの單元が「H o p」、「S t e p」、「J u m p」と3つに分かれていまして、「J u m p」で、まさに「H o p」、「S t e p」でつけた力を表現できるような、そんなつくりになっているなということを感じました。そのあたりが、もしかすると現場の先生方から、わかりやすいというふうに捉えられたのかなというふうに感じたのですけれども。

以上です。

吉田教育長 今のご意見について、少し確認しますけれども、例えば5年生の教科書を見てもらうと、目次が出てくると思います。それと、今言った三省堂の目次とあわせて見ると、どの会社の教科用図書も自己紹介、あるいは好きなもの、誕生日、時間割、できること、道案内、そういった8つから9つのユニットまたはレッスンから成り立っているわけですが、野口委員からもございましたように、三省堂の4ページの目次を見ると、1年間でやるものを三省堂は大きく3つにぐっとやって、それぞれが「H o p」、「S t e p」、「J u m p」というふうになっております。特に5年生の三省堂の38ページですか、ここの「J u m p」では、今までやってきた自己紹介にかかわる、できることとか好きなこととか、あるいは誕生日を入れるとかそういったものをひっくるめて38ページの「J u m p」のところで扱っている。中ほどに写真がありますけれども、その横に簡単な英語が載せてありますけれども、そういった構成になっているのかなと思います。

また、三省堂では、書く、読む、これも当然同じように入れてあるわけですが、例えば24ページですか、この自己紹介のところで、ローマ字で自分の名前を書こうと。他のところでも、大体このような構成になっています。

それから、31ページ、これは読む、アルファベットの読むというところ、少しゲーム形式にしているのですかね、流れの中で無理なく入れ込んでできているというふうに思います。こうしたことは、報告書の中でも構成がわかりやすいとか、あるいは授業が組み立てやすいとか、アルファベットがさりげなく配置されているなどの評価につながっているのかなというふうに思います。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 構成に関して申し上げますと、例えば光村さんのほうでは、たしか「CAN-DOリスト」がついていないということだったのですけれども、要所、要所を読んでみますと、目次のところに「何々ができる」などの形で、他の目次ですと「何々しましょう」という形になっているのです。はっきりと何ができるようになるということが記載されていまして、それぞれの「Step」の終わりに、確認のために振り返ろうという形で「CAN-DO」がありまして、自分でこういうことができるようになったかなというようなことをチェックする欄が設けてありました。

以上でございます。

吉田教育長 今の「CAN-DOリスト」についてはどうですか。どこに持っていくか。一応見てもらうといいのかなと思うのですが、三省堂では6年生の101ページにあらうかと思います。また、光村では5年生、6年生とも8ページに載せてあらうかと思います。開隆堂は巻頭ということでしたよね。それぞれ若干表現等が違ってきているかなというふうに思います。こうしたところにも、工夫がそれぞれ見られるのかなというふうに思います。余りこれをこだわり過ぎてもどうかというようなところもあるのかなというふうに思います。

他にございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 「CAN-DOリスト」の件ですけれども、実際に「CAN-DOリスト」というような形でつくってなくても、例えば2番目に推薦の多かった東書さんの場合なんかは、「Picture Dictionary」という別冊のものがついておりまして、実質ここでは3年生から、要するに小学校で習ったことが全部まとめられている形になっていますので、あえて「CAN-DOリスト」というような形をとらなくても、それにかわるものとして工夫がされているなと思いました。

また、東書さんに関しまして、今少し申し上げ始めましたので、その構成に関しましても、各単元が3つの段階で構成されていまして、まず導入部分の「Starting Out」というところでは、その「Starting Out」で始まって、その次の展開の「Your Turn」、最終的にまとめの「Enjoy Communication」、そして年に3回ほどの学習内容を振り返るとともに伝える力を確かめる「Check Your Steps」という発表の段階になっていて、先ほど取り上げられていた三省堂さんと同じような形で、ある程度の学習をして、年に数回発表する機会が設けられているというふうな構成で捉えているなと思いました。

以上です。

吉田教育長 荒木委員。

荒木委員 構成の件ですけれども、先ほどから出ております三省堂は1年間で大きい単元は3つで、1つの単元から「Hop」、「Step」、「Jump」と3つに分かれていて、学習の積み重ねを

生かせる流れになっているなと思いました。

東書のほうは、進藤委員さんがおっしゃったように、「Starting Out」でその日に学習する単元にまず触れて、「Your Turn」でその表現を聞いたり、話しながらなれていくと。「Enjoy Communication」で単元のまとめとして、学習した表現を使って自分の思いを表現するような構成となっている。そういったものが、活動がわかりやすいと感じました。

吉田教育長 他にありますか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 済みません。それでは、「CAN-DOリスト」が話題になっていますけれども、先ほど教育長さんがおっしゃったように、余りこれにこだわってかた苦しくするのも、きっと小学校では英語のところではよくないのかなというふうには思っています。各会社とも後ろのほうに、こんな単語の表現習いましたねとかということを、結構ページを割いて網羅していたり、別冊で用意したりしていますので、「CAN-DOリスト」にこだわってということは、それほど理由ではないのかなというふうには、私も少し率直に思いました。

以上です。

吉田教育長 堀川委員。

堀川委員 野口委員さんと同じような意見になってしまうのですが、3、4年生からの移行をするときに「CAN-DOリスト」で何ができる、できないというようなことでプレッシャーを感じる子もいらっしゃるかと思いますので、そういうものがないということも、今までの外国語活動に近い印象を持つのかなとは思いました。私、個人的には、三省堂さんの巻末の、余り格式張らずに何ができただかなというふうに1年間を振り返ることができるけれども、私的には自分の成長がわかっていいのではないかなというふうに感じました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 「CAN-DOリスト」の件から少し外れてしまうのですが、いずれの教科書も、そのユニットであるとか、レッスンのくくりの大きさはともかくとして、ユニットあるいはレッスンという形に区切られていて、その中で聞く、話す、読む、書くということが非常にバランスよく学習できるように工夫されているなと感じました。言語活動を通じてコミュニケーションを図る基礎となる力を形成する形をとっているのは、今までの外国語活動の流れをそのまま引き継いでいるなというふうに思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 今までの3、4年生の流れから申しますと、まず聞くことから入るということだったのですけれども、少しおもしろいなと思ったのは教育出版さんなののですけれども、教育出版さんは必ずレッスンに入る前に、「L e t ' s W a t c h」でまず見るというところがあって、私もたまたまDVDがあったので少し見てみたのですけれども、それはただ映像を見るだけではなくて、やはりそこに会話が入っていたりとか、これはただ聞いて教科書を見るだけだと少し難しいなという子どもたちでも、映像が入ることによって、より理解が増すのではないかなというふうに感じました。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

少し視点を変えて、外国語活動や、あるいは小学校英語はこれからですけれども、小学校の活動を見ても、あるいは中学校を見ても、ほとんど英語でやりとりをしているのではないかと。少しクラスルームイングリッシュがどうなっているのか、私なりに見てみたのですけれども、例えば東書だと、5年生で統一して見ていくと、8ページにクラスルームイングリッシュが載っていたと思います。

開隆堂さんはどうなのでしょう。少し私が見た限りでは見つけれなかったのだけれども、載っていないのでしょうか。学図だと、やはり8ページに書いてありますね。

見てみると、児童同士というの載っているのと、児童と教師とのやりとりだけ載っているのと、幾つか違いもあるのかなと思いました。それから、場面絵が、1つの場面絵の中にそういうのがあるのと、個々の状況に応じてこういう英語を使ってクラスルームイングリッシュとして使うのだよみたいなことが書いてある、そういうのもありました。

三省堂を見ると、12ページに載っているかと思います。これは個別場面絵つきで、それから子ども同士、さらには教員とのやりとり、こういうのが載っているかと思います。

教出については4ページ、光村については16ページと、それぞれ見比べてみてもおもしろいかなとも思いました。

啓林館と開隆堂については、少し見られなかったのですけれども、どうなのですか。選定委員さんのほうで、ここに載っているよとご指摘があれば。

原田選定委員（武蔵野中校長） クラスルームイングリッシュにつきましては、取り上げ方はさまざまなのですが、選定委員の中で特に話題に上がることはありませんでした。既に外国語活動の中で、クラスルームイングリッシュは取り組んでいるようなところもありますので、そこは話題として出なかったのかなというふうに思っております。

吉田教育長 既に外国語活動の中でそういうやりとりをしていると、私は授業を見て印象を受けたので、同じようなことだということだと思えます。

他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 今回のクラスルームイングリッシュに関連してなのですけれども、本当は次の表記でもいいのかなと思ったのですけれども、選定委員さんからも、資料の中にも出ていましたけれども、学図さんの表記・表現の中から「P r e - l e s s o n」の中に、少しクラスルームイングリッシュも含めた形で3、4年生の活動を振り返ることについては、より細かくページを割いてやっているなという印象を持ちました。初めて指導する先生方がこれを見ながら振り返っていくと、結構時間が、目標を持って活動させやすいのかなという印象は持ちました。

ただ、その分少し大きく重くなっているんで、どうもやはり見ていると、その大きさなんかもきっと学校からの推薦とかという話を聞くと、大きいのは余り好まれないのかなという印象は持ったので、少し重いかなという印象は持ったのですけれども。大きさで言うと、こういう学図とか東書は少し大きいのかなと。ただ、東書のほうも、大分学校からは使いやすいという支持は出ているようですけれども、そんな印象を少し持ちました。

済みません。以上です。

吉田教育長 重さのことが出たので、重さは東書のみが分冊になっておりますけれども、それを加えた場合は5、6年で最も重いものは、学図の5年で430グラム、最も軽いものが三省堂6年で296グラム。なお、分冊を除けば最も軽いものは東書の286グラム。これは、5、6年とも同じ286グラムでした。また、2社がA4判ということになっているということです。

他にございますか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、もう一点、これも確認なのですけれども、読む、書くというのをどういふふうに取り入れているのか。どの社も工夫して入れているわけですが、少しその違いをまとめて見てみるのもいいのかなと思いました。例えば、東書では書く、読む、これは「S o u n d s a n d L e t t e r s」ですか、5年生で見ると、5年生の16、それから19、21、22、24という形で、16、19、21、22、24と、これ下のほうに書いてあるのですね。右下のほうに「S o u n d s a n d L e t t e r s」と書いてあって、88ページとか後ろのほうには載っているのですね、これがね。それを使って書いたり読んだりするようになっているのかと思います。これは、定期的に入ってきている感じですね。

それから、開隆堂では、これは「L e t ' s R e a d a n d W r i t e」と、非常に発音が日本語的なのですけれども、済みません。9ページに載っていますかね、5年生の9ページ。これは線が引いてあって、ここに書きましょうということですが、アルファベットについて小学校の4年生、5年生……3年からですか、3年から勉強すると、ローマ字を習うということになっているわけですが、

それから、学図では25ページ、27ページ、29ページあたりに出てくるかと思います。学図では、25ページとか27ページ、29ページ。

三省堂は先ほど言いましたけれども、教出では33ページあるいは43ページに出てきております。

光村では、23ページ、25ページ、28ページ、アルファベットタイムなんていうのが設けてあるのですかね、光村ではね。23、25、28、33、35と。

それから、啓林館では最初のアルファベット、4ページにもアルファベットが多分出てきているのですかね。その後、「L e t ' s R e a d a n d W r i t e」ということで、これはレッスンの最後のほうに出てくるようになっていきます。19ページ、29ページ、39ページと配置されているかと思うのですけれども、そういうようにいろいろ取り上げ方、出し方、いろんな工夫がされているなというふうに思いました。これも、さっき協議の冒頭に申し上げましたけれども、そういったものの配慮に基づいて、こういうことが組み込まれているのだろかなというふうに思ったところです。

荒木委員。

荒木委員 アルファベットの話題が出ましたので、例えば中学1年生でも小文字のbとdがどっちに向いているかわからない、そこでもうつまずき始めるなんていう話を耳にしたこともありますので、例えばそういう観点から言えば、東書の5年生91ページにグループ分けというのがありまして、ぐるりんグループとか、そういったところでいろんな観点から小文字のことを扱われていたのいいなと思ひまして、あと開隆堂の5年生88ページ、こちらは文字の形の違いに気をつけて小文字を書こうというふうになっていて、例えばaとuが、uのところがくっついてしまって読みづらかったりとか、何かそんなこともよく聞かれますので、非常にそういうところを工夫されているなという印象を持ちました。

吉田教育長 その辺はどうなのでしょうかね、いつときコミュニケーション、英語を書けたり読めたりするけれども、一向に話せないなんて批判があつて、ピリオドをつけ忘れてもいいのだとか、「トマト」というのは「トメイトウ」という話。余り、アメリカ人だって間違ふのだから、そんなに発音、スペルを気にしなくてもいいのだとかというような話題も飛び交ったぐらいなときがありましたけれども、その辺はどうなのでしょうかね。選定委員さん、こういう話題なんかは出たのでしょうか。文字にこだわり過ぎるとどうなのとか、まず覚えなければと思った途端に英語嫌が増えるとか、何かいろいろありましたけれども、その辺話題に出ませんでしたか。

原田選定委員（武蔵野中校長） 選定委員会で、文字についての話題は出ませんでした。これは私の私見になりますが、きれいに文字を書くということで、自分ができたというような意識を持つお子さんもいらっしゃるし、4線で最初に書くという行為を見てもわかるように、文字の形を意識しながら、発声する言葉と記す言葉の関連性を子どもたちが自分で気づいていくというのも、非常に学習としてはいいものなのかなという印象でおります。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。よろしいですか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、今書くことについての話も出ておりましたけれども、先ほどから少し申し上げているようにローマ字については3年生から学習するという形で、小学校のうちにローマ字は結構大変でした、私の経験からすると。例えば、bとdだけではなくて、子どもにとってはpも同じ仲間で、pとbの区別をすとか、WとMの区別をすとか、mとnとか、あかたなはまやらわで学習していくわけですけども、いざ書いてみるとそういうのができないということが結構ありました。ですから、自分の名前をローマ字で書くのも、結構4年生ぐらいでも戸惑う子はいました。もともとローマ字は、日本語を西洋式に表現するときどうしようかなというとき、名前を書くときどうしようかなというとき、そんなことできつと考えられたと思うので、ある程度発音との関連もあると思うのですよね。

あと、スペルなんかも、例えば「p e n」なんていうのは日本語で、日本語といいますか、普通に書いても「p e n」で、英語でも同じスペルになったりとか、そういった単語もあるので、今回の改訂では大分書くことに小さいうちからなれさせていくというスタンスで小学校はやっていって、中学校できちんと書けるようにするという流れなのかなというふうに私は捉えているのですけれども、そういった意味で、各会社で書くことについて大分工夫しているのではないかなと先ほど少し申し上げたところなのですけれども、特に私少し注目したのは、先生方の学校からの意見ですか、調査研究報告書のまとめの中に、三省堂さんの書く活動が多くてとか、書き込み欄が多いとかと、そのあたりの文言が出ていて、結構書くことについて先生方も前向きに捉えてやろうとしているのだなという印象を持ちました。

小学校に、越谷は結構長い歴史を持っていると思うのですよ、英語に関しては。外国語活動を導入する前に、私も少しかかりましたけれども、英会話クラブとかが各学校にできて、そこに当時AETと言いましたけれども、AETをちゃんと派遣して、会話について、特にゲームから入って子どもたちに楽しくさせるのだと。当時国のほうでも、書くことについては大分タブー視されていて、書くことは余り推奨されなかった。逆に書くことはやめさせてくれみたいな話もあったのですよ、研究開発学校なんかでも。それが、大分英語が、外国語活動がこれだけ浸透してきて、今度教科としてやっていくとなったときに、そういった越谷は素地もあるので、コミュニケーションについてはかなり先生方、なれてきているのかなというふうに思って、先生方もきつと今度の学習指導要領では、書くことについてはこういうスタンスでいこうということもきつと先生方もわかっていらっしゃっているのかなというふうにも思いましたし、書くことに対して前向きに捉えているのかな。ですから、ある程度スペルにもなれていって、中学校できちんと指導してもらって覚えていく一つのきっかけに小学校のうちからしていくということも、一つ方

法なのかな。先ほど申し上げたように、あくまで指導のスタンスをしっかりと持ってやっていけばいいのかなというふうに思っております。

以上です。

吉田教育長 余りローマ字やり過ぎてしまうと、「トマト」は「トマト」で、実際は「トメイトウ」で、a b c の a をちゃんと読めば「トメイ」、t o は「トウ」と教えてくれた英語の先生いましたけれども、そういうふうに耳から聞いて英語が書けるようになる、そういうことを重要視しているという考えでいいのでしょうかね。

他にございますでしょうか。大分出たところですけども、最初に資料の協議もと申し上げましたけれども、再度お聞きしますが、資料についてご意見ございましたらお願いをいたします。

進藤委員。

進藤委員 資料と言っているのかどうか分からないのですが、5年生になって初めて英語の教科書を開く子どもの気持ちになって、まず表紙を1ページめくってみました。開隆堂であるとか啓林館のように、冒頭から「CAN-DOマップ」や目次を配置している教科書では、5年生ではこんなことができるようになるのだなという期待が膨らむような気持ちがしました。それ以外の教科書に関しましては、イラストであったり写真であったりを開示しているのですが、こういった教科書を見ると、英語を学ぶことが何か広い世界への入り口になるような、あるいは新しい扉を開くような、わくわくするような気持ちがしました。どちらもこれからの学習に対して期待を持てるような演出だなというふうに感じました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。あるいは関連してありましたらお願いいたします。

渡辺委員。

渡辺委員 どの教科書も、身近な話題とか題材を取り上げて教科書が構成されていると思うのですが、一つおもしろいなと思いましたのが東京書籍さんなののですが、確かに5年生のほうの教科書を見ますと、自分から始まって、地域のこととか日本のことを紹介しようという形になっているのですが、6年生になって世界の国々とか世界と日本が、最後のほうは中学校への扉という形で世界に目を向けるようになってきて、もともと英語を学ぶ趣旨というのは、やはり外国に興味関心を持ったりとか、あとは外国の方と積極的にコミュニケーションを図るようになろうとか、そういうことがあると思うので、資料といいますか、題材の取り上げ方として非常におもしろいなというふうに思いました。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 東書だけは別冊の絵辞典「Picture Dictionary」ですか、これがつ

いているのが他のところと違っているなというのが、もう本当に一目瞭然なのですけれども、他の教科書では学習内容をまとめたものが大体巻末に同じように配置しているのですけれども、別冊の付録の形がとられているのは、何か子どもの興味を引くのではないかなというふうな気がしました。3年生から6年生までの学習内容が1つにまとめられていて、私は使いやすいのではないかなというふうに感じました。実際中学生になっても使えるというコメントもついていました。別冊であると、すぐなくすという危険性もあるのかもしれませんが、中学校に上がった場合、このような別冊というのは例があるのでしょうか。教えていただければと思います。

原田選定委員（武蔵野中校長） 選定委員では、この「Picture Dictionary」については、一つおまけがついているよねというような話題では出ましたが、どの教科書も巻末のほうにいろんな意味で言葉を載せてあるので、別冊かどうかの違いだというような話がありました。

先ほど中学校の教科書にこのような別冊がついているかという話については、教科書自体にこのような別冊がついているというような記憶はございません。副教材として、各学校でワークや他の部門をこういうふうにしているというようなものはあるのかもしれませんが、教科書にこのような形であるというような記憶はございません。

以上です。

吉田教育長 よろしいですか。

進藤委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、調査の観点3、表記・表現について、文字の大きさとか、あるいは4線の幅とかあるかと思いますが、どうでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 教科書の見た目は、子どもたちにとっても重要なと思います。基本的にどの教科書も絵が多く、わくわくするようなつくりで楽しさも感じます。調査委員会のほうでは、東書さんの教科書はイラストなどが、とても絵やイラストが見やすいといった意見もあったようです。

私が感じたのは、三省堂さんの中で「Panorama」という欄があるのですけれども、1枚の楽しそうな絵からいろんな活動が広がりそうですし、たくさんの単語をその場で使って覚えられそうな感じはしました。他に三省堂さんは、日本語、英語も大き目でよいかなという印象を受けます。

以上です。

吉田教育長 進藤委員。

進藤委員 私も同様な意見で、やはり教科書は見た目、やはり第一印象というのは、人ではないで

すけれども、大事なかなというふうに思いました。表記のことで少し感じたのが、学図に関してなのですけれども、学図に関しましては英語が日本語よりも大き目に表記されているなということも、少しおもしろいなと思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 表記のことにに関して、これもおもしろいなと思ったのは学図さんなのですけれども、学図さんは基本的に写真や絵が大きく出ていまして、そしてレッスンの始まりの見開きのページの絵なのですけれども、これが英語ではなくて、あえて日本語で、例えば6年生の42ページなんかを開いていただくと、「祭り」とか、あえて日本語で書かれているところがおもしろいなというふうに思いました。

以上です。

吉田教育長 野口委員。

野口教育長職務代理者 これは選定委員にお伺いしたいところなのですけれども、文字を書くための4線なのですが、小学校でもローマ字などで使っていますけれども、第2線、第3線の間を広くとっている教科書もあるかなと思いますし、英語の文字に慣れていない子どもたちが書きやすいようには工夫されているなというふうに思います。啓林館は、幅は同じようには見えます。子どもにとってはどちらがよいのかな。その辺の話題が出たかどうかとか、あるいは中学校に上がったとき、1年生の時点としてはどうなのかな。少し教えていただければと思うのですけれども。

原田選定委員（武蔵野中校長） 4線につきましては、話題として出ました。教科書会社によって、示しているものとか、後ろの付録で実際に書き込む部分とかが、割と特徴がありますということなのですが、4線につきましては、特にこうしなければいけないというものは、多分学習指導要領などでも示されてはいないと思います。

幅が広いほうが絶対書きやすいはずなのですが、中学校との関連を考えたときには、中学校の4線は、ほぼ同等のものを中1から使うというような傾向ですので、市販のもので対応しています。ですので、実際に職員に聞いたところ、4線と4線の間のやや広いところに書いてしまう子が割といるそうです。それは、もしかしたら広いところに書くということに慣れていたせいかなと。それは何回か指導すると直るということですが、一番最初にそういったものもあるのかなというのを、学校の実態として少し聞いております。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、先ほどから出ていますけれども、英語嫌いをつくらないとか、聞くことか

ら入る、学びの大切さとかいうようなことにかかわってですが、総括についてご意見ございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 たまたま1週間ほど前でしょうか、先日全国学力テストの結果が発表となって、中学校の英語ではあるのですが、英語の話す技能の全国平均正答率が30.8%と、考えを表現することに課題があるということが、何か改めて明らかになったのかなと思いました。以前から指摘されているとおり、英語教育にはいろいろと課題が多いようですけれども、何はさておき、まず中学校に上がる前にとにかく、先ほど教育長がおっしゃっているように英語嫌いだけにはさせないということは大切なことかなと思います。中学校への接続を考えたときに、これはとても大切なポイントになるのではないかなと思います。小学校から文字指導が入ってきますけれども、「聞く、話す、読む、書く」のバランスをどうとるかが大事だと思いました。

教科書を開いたときに、いきなり長い文章が出てきたり、英語を書くスペースがぎゅっととられたりすると、いかにもとっつきにくくて、子どもにとってはいきなり嫌な気持ちになるのではないかなと思います。まずは、やはり楽しくスタートを切ることが大事なのではないかなと思います。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 今の進藤委員さんのご意見に、まさに同感なのですが、楽しく取り組ませるために、やはり最終的には教員がいかにも子どもたちの評価をしていくかということが、最終的には大事になってくるかと思うのです。ですので、その辺の観点をしっかり持って、事務局さんが中心だと思うのですが、そのあたりをやっていくことで、教師の負担にもならないように、そして子どもたちにもやる気が出るように、なおかつできた達成感も、難しい話になりますけれども、そういった評価の観点などもこれから大切になってくるのではないかなというふうに私は思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより英語の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、渡辺委員、野口委員を指名いたします。

〔立会人立ち会の上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告をいたします。

投票結果については、発行者の番号、発行者名、評価の合計点について登録順に読み上げます。

2 番	東京書籍	2 7 点
9 番	開隆堂出版	2 3 点
1 1 番	学校図書	2 1 点
1 5 番	三省堂	2 9 点
1 7 番	教育出版	2 1 点
3 8 番	光村図書出版	2 0 点
6 1 番	新興出版社啓林館	1 8 点

以上のとおり小学校英語の教科用図書は、15番、三省堂を採択することに決しました。

小学校音楽の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 音楽の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

柳田選定委員（城ノ上小教頭） 音楽につきましては、教育出版社、教育芸術社の2社になっております。今年までの教科書と比べて、どちらの出版社も学びを進めるヒントや資料が充実しています。また、どちらについてもQRコードが付きまして、楽譜と音が結びつくなど理解が深まる工夫がされております。

では、まず教育出版社についてお話し申し上げます。1つ目の内容、知識、技能の習得につきましては、題材の構成については、発達段階に応じた題材や教材が配列されていて、1つの題材の中で深めて学習できるように工夫されておりました。

思考力、判断力、表現力の育成につきましては、学び方のヒントとして、「まなびナビ」のコーナーがあり、表現の工夫や聞き方のポイントを示しておりました。強弱とか速度など、音楽を形

づくっている要素、共通事項については、「音楽のもと」と称して年間を通じて学習を進め、中学年以上の多くのページには聞き取ったことを書き込めるようになっておりました。

学びに向かう力、人間性の育成については、4から6年生の巻頭に各ジャンルの演奏者のメッセージが掲載されておまして、音楽活動への意欲につながるように工夫されておりました。

生活、社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力の育成につきましては、日本で起こった災害と音楽のかかわりを紹介し、音楽にできることは何かを考えられるように工夫されておりました。日本の楽器の魅力の紹介や、日本各地のお祭り、民謡、世界の音楽を多く掲載されておりました。

2番目、資料についてです。歌唱共通教材については、情景をはっきりと写し出した写真が挿入されておりました。折り込みを使って大きく掲載したページもありました。その他の教材については、写真や挿絵に透明シートを用いて言葉で説明をしているページがあったり、巻末の折り込みにリコーダーの運指表が掲載されていて、どのリコーダー教材のページからでも折り込みを開くことで参照できるようになっていたりする工夫がありました。QRコードで動画や音声の資料が表示されるようになっているため、家庭学習もしやすくなっておりました。また、他の学年の閲覧も可能でした。

表記・表現については、どちらの教科書も発達段階に応じた文章表記で、発達段階に合わせて絵や図、写真の大きさを変えて見やすくしてありました。ユニバーサルデザイン化に向けた配慮がなされておりました。特に教育出版社では、教材ごとに共通事項、「音楽のもと」を右下にタブのように表記して、わかりやすくなっておりました。「音楽を表す言葉」と称して、音楽から感じる言葉、例えば楽しい感じとか悲しい感じなどの言葉を別ページにまとめて掲載して、学年が上がるにつれて語彙が上がるように工夫されているページがありました。楽譜がシンプルですが、情景の写真を折り込みで大きく掲載しておりました。各教材での狙いとなるキーワードや共通事項の内容が色づけされており、学びのポイントが見つけやすくなっておりました。

総括についてです。教科書の大きさは、低学年はA B判、少しだけ小さくなっている判、そして中高学年はA型と変形判でした。学習の系統性としては、全学年の主要部分を、基礎的な内容を扱う題材分と学習を広げる題材分で構成されており、各題材の学習を通じて基礎的、基本的な内容が身につけられ活用できるようになっておりました。言語活動の充実が図られるようにするために、「音楽を表す言葉」をまとめて配置するなどの工夫がありました。日常生活とのつながりとして、遊び歌や童歌は簡単にできる教材を段階的に掲載されておりました。他の教科、他学年との関連については、全学年に発達段階に応じた英語の歌が掲載されており、外国語活動との関連が図られておりました。また、2年生では算数の九九の歌などが入っており、算数との関連も図られておりました。4年生以上には、各教材に登場する該当学年の指導要領に示されていないような音符、記号、用語については「発展中学」などといった表記があり、児童が中学校とのつ

ながりを意識しながら学習できるようになっておりました。

続きまして、教育芸術社についてです。1の内容について、知識、技能の習得については、題材の構成については、段階的で系統的に題材や教材が配列されておりました。前の学年の学びが次につながっていて、既習事項とのつながりがわかるような「思い出そう」というように記された部分があり、積み重ねや繰り返しの学習ができるような構成となっておりました。

思考力、判断力、表現力の育成については、工夫や聞き方のポイントになるような例が、キャラクターの吹き出し等でたくさん示されておりました。また、強弱や速度など音楽を形づくっている要素、共通事項がページの下にタブのように示されており、年間を通じて学習を進めやすくなるような工夫がされておりました。高学年のページには、感じたことや気づいたことなどを書き込むことができるようなページもありました。

学びに向かう力、人間性の育成については、各学年の巻頭に「学びの地図」と称し、学習指導要領の内容を発達段階に応じたわかりやすい表現で示しており、見通しを持って学習に取り組めるような工夫がされておりました。また、演奏家だけでなく作曲家のメッセージも掲載されており、音楽活動への意欲につながるような工夫がされておりました。

生活、社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質、能力の育成については、身の回りの音を見つけ、音楽づくりができるように教材が配列されておりました。歌唱教材から、音の働きや役割、音楽と人々とのかかわりを考えていけるような題材展開が掲載されておりました。

続いて、資料です。歌唱共通教材は、児童がみずからイメージを膨らませ、想像豊かに学習が進めていけるような写真やイラストが掲載されておりました。器楽教材のページには、楽器の奏法がそのページ内に示されておりました。そのほか端末には、その学年の鑑賞教材に出てくる作曲家の写真や説明が掲載されておりました。QRコードは、関連するページの右下についており、その資料が動画や音声で表示できるようになっておりました。

表記・表現についてです。楽譜が大きく配置され、楽譜の周りの写真やイラストが豊富に掲載されており、楽譜を見ながら児童がみずから豊かに想像して表現できるような工夫がされておりました。教材ごとに共通事項が右下にタブのような形で配置され、重点を太字にして表記しておりました。丸みのあるフォントを使い、カラフルで多様な色使いがなされており、教材の雰囲気をつかみ取りやすくなっておりました。

4、総括です。教科書の大きさは、全学年がA変形判でした。学習の系統性については、全学年において系統的な題材と、題材に即した教材が配置され、学年の中や学年を超えた学びのつながり、学びの深まりが得られるように構成されておりました。言語活動の充実については、自発的、積極的な言語活動が促されるよう、感じたことを書き込むところに注目するポイントのみを表記するなどの工夫がされておりました。日常生活とのつながりとして、遊び歌や童歌は簡単にできるものから段階を追って幅広い内容の教材というふうに、低学年2年かけて継続して学習で

きるよう工夫されておりました。他教科、他学年との関連につきましては、英語の歌や国語教材の歌などを掲載して、他教科との関連が図られるようになっていました。3年生以上には、当該学年の指導要領に示されていない音符、記号、用語などに「ステップアップ」という表記がされており、巻末に音符や休符、記号、音階などの一覧表の中でまとめられており、既習事項と関連づけながら発展的な学習ができるように表記されておりました。

以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず初めに選定委員会としてどの教科書を推薦するか、ご説明をお願いします。

齋藤選定委員長（増林小校長） 選定委員会では、協議内容、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見などを参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が2種類の教科書発行社について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、17番、教育出版67点、27番、教育芸術社76点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、76点の教育芸術社、67点の教育出版を推薦いたします。

以上でございます。

吉田教育長 他に。

堀川委員。

堀川委員 選定委員会ではどのようなことが話題になりましたでしょうか。

柳田選定委員（城ノ上小教頭） 選定委員会では、QRコードについて話題になりました。教育出版では、目次のところにQRコードからアクセスできる「まなびリンク」が学年4から6カ所程度設定されており、動画や音源、解説資料などが活用できるようになっていました。

教育芸術社は、各学年8から12カ所の紙面上のQRコードを読み取ることで、曲の紹介や短い動画などのコンテンツを閲覧できるようなホームページに移行することができます。

以上です。

吉田教育長 よろしいですか。

堀川委員 わかりました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主

な理由について教えてください。

柳田選定委員（城ノ上小教頭） 学校からの推薦では、教育芸術社が28票、教育出版社が16票という結果でした。

推薦理由としましては、教育芸術社では写真が多く、以前のもよりも児童も目当てを意識して活動しやすい。なじみ深いので安心感がある。絵や写真がきれいで、説明も丁寧で、以前のもよりもわかりやすい。時代の流れに合った教材があるなどの意見がありました。

教育出版社では、鮮やかな写真がたくさん掲載されており、イメージを広げて表現活動をしやすい。題材ごとに学習の見通しを示したり、音楽を形づくっている要素を示したりしているなどの意見がありました。

以上です。

吉田教育長 他にございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 日本の音楽については、どのような扱いになっているのでしょうか。

柳田選定委（城ノ上小教頭） どちらの教科書にも、童歌や古典芸能、日本芸能、和楽器などについて、味わったり理解を深めたりするような工夫が随所にあります。

教育出版社では、歌唱共通教材「につぼんのうた・みんなのうた」コーナーに、季節感や情景を感じられるような写真や資料を掲載し、世代を超えた音楽文化の共有に配慮されておりました。

教育芸術社のほうでは、全学年に「歌いつごう日本の歌」コーナーに、童謡や唱歌などが精選して取り上げられております。歌唱共通教材については、「こころのうた」で説明文や情景写真などを掲載して、子どもたちが感受性を働かせながら歌うことができるような配慮がなされておりました。

吉田教育長 よろしいですか。

渡辺委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他になければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 どちらの教科書もさまざまな工夫が見られました。ただいまの選定委員さんのご説明のとおりだと思いますので、少し印象に残ったことを幾つか申し上げたいと思います。

まず、イラストですけれども、教出では鍵盤ハーモニカにつきまして、1年生33ページをご覧

いただければと思います。その33ページの「いろいろな動物の鳴き声をまねしてみよう」から入り、ここで大きな象さんとか小さなスズメさんとか、そういう方法で強いとか弱いとか、そういったことも非常にわかりやすいのかなと思います。そちらから入りまして、34から35ページには、黒鍵の部分に2つの山、3つの山、それから左側が低い音で右が高い音ですとか、それから先生、みんななどとなっていて、吹いている写真も載っていて、非常にわかりやすいなと思いました。そういったことが次のページ、そして2年生へも続いていって、段階的に学習できるように大変工夫されているなと思いました。

リコーダーのほうも3年生で、教出の3年生ですけれども、19ページからの新しい各音で、子どもが見てよくわかる、実際に子どもが吹くと同じ向きの写真が載っています。吹くことができれば、子どもたちの楽しさも増すのかなと思います。

教芸は、3年生の25ページのリコーダー奏者のコメントなど、子どもたちの技能習得のための良いヒントだなと思いました。

また、教出は例えば4年生58から59ページのオペラのところですが、こちらには実際の公演の写真が載っていて、その作曲者についてはそのページに載っているようになっています。あと、例えば教出3年生40ページの「ふじ山」や、6年生8ページの「おぼろ月夜」は、音楽の主要な要素である情景を思い浮かべてイメージを膨らませるということのできる大きな美しい写真があって、以前のものよりも歌詞の内容に合っているものになっている場合もあり、そして続く「学び合う音楽」のページでメロディーの流れを表すなど、音楽表現を深めることができるようになっていると思います。

教芸は、6年生32から33ページにメロディーづくりがあって、つくったものを発表し合って、気づいたことや感じたことを伝え合うようになっています。子どもたちが、知識や音楽表現を深めることにつながると思いました。

それから、教出は震災復興後の音楽活動を紹介したり、オリンピック・パラリンピックの写真に掲載したりして、人々の暮らしとのかかわりを示し、社会と主体的にかかわる気持ちが育つような工夫がされています。

教芸は、1年生から6年生までの教科書をパズルのように並べると、1つの地図のようにつながります。こういった形で並べると、つながるということがキーワードのようで、復興やオリンピック・パラリンピックなどのスポーツとのかかわりや、音楽を通して人と人がつながることを考えるような工夫をしてあると考えます。子どもたちが、音楽のすばらしさをそのようなところでも感じ取れるようになっていると思いました。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 今回の荒木委員のお話をもっともだなと思いました。また、特に教育出版のほうは、先ほど出ていた写真の大きさがやはりかなりインパクトがあるなという印象がありますし、あと透明シートなど使って工夫されているなという印象をすごく持ちました。

一方、教芸のほうは「歌いつごう日本の歌」ということで、割合とはっきりと日本の歌を、これは大事にしていこうという姿勢が打ち出されているのかなと思うので、この辺の特徴もあるのかなと。また現場からはわかりやすいという声も出ていますが、楽譜が大きく配置されたりしているのが現場でいいのかなと、少しそのように想像してみました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

私のほうから、教芸のほうですけれども、5、6年とも同じくくりの題材で教材を繰り返して扱っているため、補充、深化が図りやすくなっているのかなというふうに思ったと思います。また、音楽にかかわる用語や音楽を特徴づけている要素、これらの仕組み、これについて同じくくりの中で同じ共通事項を扱うため、理解を深めやすくなっているのかなというふうに思います。構成上ですけれどもね。

ちなみに、教芸の5と6、これを比べてもらえるといいのかなと思うのですが、まず両方とも6ページを開いてみると目次が載っていて、①から⑧まで色分けしてありますが、大きなくくりがあるわけですが、これについては全く同じになっています。その中でということなのですが、そこで12ページ、同じ12ページなのですが、12ページを見ると、5年生のほうでは「曲の特徴を生かして明るい歌声で歌いましょう」、6年のほうでは「歌詞の表す情景を思い浮かべながら曲想にふさわしい歌声で歌いましょう」というふうになっています。

さらに、また5年の36ページ、28ページ、これも比較できるかと思うのですが、同じくくりの中ですね、これも。「和音の移り変わりを感じ取る」から、「重なり合う響きを感じ取る」、和音とか旋律に注目しているということになるのかと思うのですが、さらに5年の38ページと6年の34ページ、これはリズムと旋律、歌詞と旋律に着目してということになるのかなと思うのですが、「曲想の変化を感じ取って明るい歌声で」から、「曲想の変化を味わいながら思いを込めて」としてあります。いずれにしても、音楽で思いを伝えようとするその深まりが感じられるようにする構成となっているのかなと思っております。

これら報告書の中で、扱っている教材はそれほどは変わっておらず、また共通教材を児童にとってわかりやすく取り上げており、指導しやすい。あるいは系統的に教材が配置され、学年を超えた学びのつながり、深まりが得られるように構成されているといった、そういった評価につながっているものというふうに考えているところです。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 もしなければ、資料それから表記・表現、総括について、まとめてご意見等ございましたらお願いをいたします。よろしいですか。

荒木委員。

荒木委員 資料に関してですけれども、教出では作曲者や作詞者の名前に振り仮名が振ってあって、よいと思います。

あと、どちらの教科書も題材や教材が系統的、発展的に配置されていると思います。音楽を通して子どもたちが笑顔になり、子どもたちに豊かな情操が育まれ、音楽でハッピーになれるようであってほしいなと思います。どちらの教科書も歌唱、器楽、鑑賞とさまざまな曲が掲載されていて、子どもたちと音楽とのすてきな出会いができると思います。

一保護者といえども、小学校での休み時間、外で一生懸命遊んでいた子どもたちが、休み時間が終わって校舎へお友達と歌いながら帰っていくのを目にしたことが何度もあります。みんなとても楽しそうで、生き生きと明るい表情をしていました。音楽の授業も、楽しく明るい雰囲気大切かと思いました。

以上です。

吉田教育長 私も余談ですけれども、アカペラで子どもたちが歌を歌いながら廊下を歩いているような場面に出くわすとほっこりする。少し関係ありませんでした。申しわけありません。

他にございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 済みません。今のお話と関連してなのですが、教芸のほうの2年生の10ページ、11ページに、「いろいろなくにのおどりの音楽を楽しみましょう」という欄があるのですが、音楽というのは私たちの生活と密着していて、非常に生活を豊かにしてくれるものだと思います。非常にここに載っている人たちの踊りながらの笑顔がとてもいいと感じました。

また、人と人とをつなぐということで、教芸さんの6年生のほうでも「復興と希望の歌」といったところもあります。音楽の力をすごく感じるようなところではないかなというふうに感じました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 先ほど荒木委員のほうからお話がありましたように、例えば鍵盤ハーモニカのところを見てみますと、具体的に猫が載っていたり、小さく音を出そうねというときはチュンチュンとスズメと、ああ、こういうふうにするのだなということが改めてわかりまして、高学年のほうになりますと多分専科の先生がご担当なさるかと思うのですが、やはり低学年、中学年、担

任の先生が授業をなさるときには、わかりやすいこういうヒント、楽器の使い方とかが載っていたほうがいいのかなというふうに思いました。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより音楽の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 順次投票をお願いします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。投票漏れはございませんか。

それでは、開票、集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、堀川委員、進藤委員を指名いたします。

〔立会人立ち会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号、発行者名、評価の合計点について、登録番号順に読み上げます。

17番 教育出版 27点

27番 教育芸術社 30点

以上のとおり小学校音楽の教科用図書は、27番、教育芸術社を採択することに決しました。

小学校特別支援教育に係る教科用図書について審議いたします。

選定資料等の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 特別支援教育に係る教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

齋藤選定委員長（増林小校長） それでは、特別支援教育に係る教科書について説明させていただきます。

まず、特別支援学級は学校教育法第81条により、障がいによる学習上または生活上の困難を克

服するための教育を行うものとして規定されております。指導内容は、該当の小学校及び中学校に準ずるものとされており、教科の構成や教科書も通常の学級に準じて利用されています。しかし、知的障害特別支援学級や自閉症、情緒障害特別支援学級で該当の学年と同様な教育課程を行うことが困難な児童が多いため、知的障害特別支援学校の学習指導要領を参考にして教育課程を編成することが認められております。

市内の特別支援学級の実情としては、算数や国語といった教科の学習とともに、生活単元学習や日常生活の指導などの知的障害特別支援学校の学習指導要領に規定されている枠組みで指導されていることが多くあります。したがって、文部科学省が編集しております知的障害特別支援学校用の国語、算数、音楽の教科書を活用することは、特別支援学級において妥当だと考えております。そこで、本日特別支援学級用の教科書として選定について検討していただくのは、知的障害特別支援学校小学校部用教科書、国語、算数、音楽の3教科の教科書でございます。それぞれ難易度の段階として、星1つ、星2つ、星3つの3種類が小学校部段階の各教科に編集されております。

それでは、各教科の教科書について説明してまいります。初めに、国語の教科書ですが、内容を読み取ったり言語化したりすることにより、伝えていく力を育むように工夫されております。特に特別支援学級児童の発達段階から考えますと、星2つあるいは星3つの段階の教科書を使うことが多く、特別な支援が必要な児童のコミュニケーション能力を高めるには、使いやすい構成で、特別支援学級児童の標準的な発達段階に適合した内容になっております。日常行われている生活上の行動などが絵とともに示されている段階のものから、買い物や手紙など身近な題材を取り上げ、人とのやりとりやコミュニケーションを経験するように工夫されております。星2つ、星3つなど習熟度に従って、簡単な物語や説明文など文章の理解やその文章をそしゃくし、劇やペープサートなどで動作化できるように工夫されております。また、図や絵が多く使われたり、カードを活用できたり、文章をつくる手助けができるように工夫されております。特別支援学級に就学、在籍する児童は、抽象的な思考が困難なことが多く、生活に根差した具体的な教材を活用して生きる力としての言語活動を指導する必要があります。この国語の教科書は、その目的を達成するには、内容、表現、構成においてよい教科書だと考えております。

次に、算数の教科書について説明いたします。形づくり、形集め、絵カードそろえなど、簡単に授業内に取り入れられるような活動が掲載されており、実際に同じ活動を行うことで学習内容が習得できるように工夫されております。星1から3に進むにつれて、具体的なものを数えることから始まり、おはじきやブロックなどの半具体物を数える、数字とマッチングするというように数を段階的に理解できるような構成になっております。また、給食、朝の支度、靴箱の利用など児童の日常場面を取り上げ、学んだことが実際の生活に生かせるように工夫されております。特別支援学校の児童生徒対象の教科書ですが、小学校1年生から6年生まで在籍する小学校特別

支援学級では、年齢差や発達段階の差が極めて大きいため、算数における概念形成から生活に結びつける内容は、効果的な教科書だと考えております。

最後に、音楽の教科書について説明いたします。教科書のつくりとして、歌詞に合わせた挿絵や写真が多く使われており、背景がイメージしやすく、興味を持って取り組むことができるようになっております。楽器を鳴らして音を楽しむ活動や、生活に即した歌が掲載されており、日常的に楽しむことができるように工夫されております。また、季節や行事に適した曲もバランスよく構成されております。童謡や唱歌、ポピュラーになっている日本の歌なども多く掲載されており、昔から伝わる日本の音楽も学べるようになっております。日常生活にかかわる挨拶や片づけを歌にすることで、音楽に興味を持ちながら楽しく学習に取り組めるように工夫されております。初めに、図と文字でリズムを表し、次は文字なし、そして音楽記号が使われるなど発達段階に応じた工夫がなされております。

以上、特別支援学校用の国語、算数、音楽の教科書について説明させていただきました。

特別支援教育につきましては、複数の教科書会社から選ぶということではなく、文部科学省著作教科書について採択するかしないかということになりますが、特別支援学級において児童の実態、保護者の要望、学校での必要性に応じて教科書の選択の幅を広げ、より児童の教育的効果が上がるように特別支援学校用の教科書を採択していただけるとありがたいと考えております。

以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、選定委員会として文部科学省著作の特別支援学校小学部用教科用図書の採択についてどのような意向がありましたか、ご説明をお願いします。

大友選定副委員長 選定委員会では、調査報告書、法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が教育委員会に推薦するかしないかについて記載し、無記名で投票いたしました。その結果、16名全員一致で推薦することに賛成となりました。

したがって、文部科学省が編集しております知的障害特別支援学校用の国語、算数、音楽の教科書を活用することは、特別支援学級においても妥当だと思われます。

以上でございます。

吉田教育長 他にございませんでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 現在、越谷市の小学校で、この文部科学省著作の特別支援学校小学部用教科用図書を使用している学校はございますでしょうか。

齋藤選定委員（増林小校長） 今年度使用している小学校は、今のところございません。

中学校では、星4つの教科書を利用し、使用している学校が、特別支援学級設置校8校中5校ございます。小学校では使用していない現状でございますが、個々の課題に応じて学習しやすい環境を整えるためには、通常学級で使用している教科書の他に、選択肢の一つとして、文部科学省著作の教科書を選ぶことができるようにすることは大事であると考えております。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 文部科学省著作の教科用図書は、全体的に見て、特別支援学校の児童が使用する上でどのような配慮がされていますか。

齋藤選定委員（増林小校長） 個々の発達段階において、文字の認識については難しいところもありますので、視覚情報としてぱっと見てわかりやすい、把握しやすい、認知しやすいというふうなところで、色使いや絵の大きさ、あるいは1つのページ、また見開きのページの中に情報が多過ぎないというふうなところが工夫されと考えております。

以上でございます。

進藤委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他になければ、次に国語の教科用図書に関する質問はございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 国語の教材の配列というのはどのようになっておりますでしょうか。

齋藤選定委員（増林小校長） 教科書でございますので、どうしても1つの流れでつくられております。例えば、単語から文章というふうな形、あるいは同じ文章の中でも説明的なものから文学的な物語になったりとしております。ところが、さまざまな年齢や、あるいは発達段階のいろいろなお子さんがいるということで、これを頭からずっと使っていくというよりも、教師が今必要な単元、今必要な題材でここを使いましょうというようなところで工夫して、順番どおりではないのですが、選びながら活用しているところです。その中で、必要に応じて先に進んだり、また戻ったりしながら使うというような構成になっております。

堀川委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、次に算数の教科用図書に関するご質問はございますか。

進藤委員。

進藤委員 算数に関しましては、やはり生きる力をつけるために、学びが生活に生かされるようになることが大切だと思いますけれども、そのような内容になっていますでしょうか。また、どのような工夫が実際されていますか、教えてください。

齋藤選定委員（増林小校長） 数の概念をつくっていくというところになると思うのですが、数を数えるということから始まりますけれども、最初は花であったり、果物であったりというような具体的なもの、具体物を数えて、数字に置きかえていたり、あるいはイチゴやリンゴのような具体物を加えたり、または除いたり引いたりしながら、足し算や引き算の練習ができるように構成されています。すなわち、操作をしながら数の量の概念を身につけていたり、増えた、減ったということがわかるような構成になっています。

さらに、長さを比べたり、どっちが大きいとか小さいという言葉の概念と数量的な認知を、認知的な概念を結びつけるような構成になっています。

以上でございます。

吉田教育長 よろしいですか。

他にないですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、音楽の教科用図書に関する質問はございますか。

荒木委員。

荒木委員 童謡とか唱歌とか叙情歌などの日本の音楽についての取り扱いを教えてください。

吉田教育長 童歌の「かくれんぼ」や、「だるまさん」みたいないわゆる歌遊びのようなものが掲載されています。また、「ほたるこい」、「花火」、「海」という小学唱歌であったり、小学校で年配の我々などが習ったころのような歌も掲載されています。また、「トトロ」や「魔女の宅急便」など、テレビや映画などで子どもたちになじみの深い曲も取り上げておりますので、教材としてはバラエティー豊かに取り上げられていると感じております。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。特別支援教育に係る教科用図書は、国語、算数、音楽を一括して審議いたします。

それでは、ご意見をお願いいたします。

堀川委員。

堀川委員 国語の星1につきましては、教科用図書の絵に基づいて教師の話を聞いて楽しんだり、声や体の動きで反応したりする活動を想定していると考えられます。国語1の初めのほうに「ま

ほうのはこ」という絵があるのですけれども、とてもインパクトがあり、思わず「わあっ」という声が出てきそうで、会話も弾むのではないかと思います。国語に限りませんが、五感をフルに活用して学ぶための配慮がされているというふうに思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますか。

私のほうから、特別支援教育、特に知的障がいがある児童に対する教育については、子どもたちが自立し社会参加できるよう、自立的な生活に必要な事柄を体験的、实际的に学ぶという、いわゆる領域と教科を合わせた生活学習をすることがあります。この星本は、そのことを意識してつくられていると。その点においても、有効なものだというふうに考えております。

例えば、国語の星2つの16ページでしょうか、ここでは買い物を取り上げているかと思います。それから、ページ18では電話をとろう、かけよう。買い物が15か、電話をかけようというのがありますかね。星3かな。いずれにしても、そういう生活の具体的な場面から学べるようになっていくかというふうに思います。

また、算数の星3つの98ページ、これでは実際に買い物をしたらということを想定して、お金を使って計算の仕方を学ぶようになっている。前回中学校をやりましたけれども、中学校では券売機を実際に、切符を実際に買いに行くということをやって、生活の自立を促すというような領域と教科を合わせた、そういう学習をするようになっているかと思います。

先ほど選定委員からもありましたけれども、現在小学校では使用実績はないということですが、星本の採択に当たっては、採択したら主たる教材として必ず使用することではないわけですが、採択しないと使用できないということなので、使用可能な状態にしておく必要があるかというふうに思います。

他にございますでしょうか。この他に協議したい内容等はございますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより特別支援教育の教科用図書に係る採択に入ります。

特別支援教育の教科用図書は、文部科学省著作の教科書のみとなりますので、国語、算数、音楽を一括して採択いたします。

選定委員の先生方、どうもありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は、無記名投票により、可とする場合はマルを、非とする場合はバツを記入し、多数決によりマルが過半数を超えた場合、採択するものとします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として荒木委員、それから渡辺委員を指名いたします。

〔立会人立ち会の上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

可が6票で、これは全員となります。

以上のとおり小学校特別支援教育の教科用図書は、文部科学省著作の教科書を採択することに決しました。

◎休憩の宣告

吉田教育長 それでは、午前中の審議はここまでとし、暫時休憩といたします。

次の小学校生活について、13時から再開することといたします。

休憩 午前11時57分

再開 午後 1時00分

◎開議の宣告

吉田教育長 休憩前に引き続き会議を始めます。

小学校生活の教科用図書について審議いたします。

生活の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 生活の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

沖田選定委員（大相模小校長） それでは、ご説明いたします。

生活科は7者ございます。全体的な教科書会社に当てはまる点について、まずご説明させていただきます。内容については、生活科の目標とする生活に必要な習慣や技術を身につけること。そして、自分自身や自分の生活について考え、表現すること。そして、意欲や自信を持って生活を豊かにしようとする態度を養うこと。そして、また具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めることについては、いずれの教科書会社も工夫がされております。

2点目、資料についてでございますが、学習効果を高めるための資料は、どの教科書も充実し

ていました。QRコードでございますけれども、これについては日文以外全ての教科書にありました。また、ICT活用についての資料については、低学年から活用を促す意図から、イラストのみであったり、または使用の注意の解説つきとなっていることなど、軽重がございますけれども、全ての教科書には記載がございました。

また、3点目、表記についてですが、発達段階や児童の実態に対する配慮、工夫についてはどの教科書もございました。文字についてでございますが、書体を複数使用している会社もございましたけれども、いずれも中核となっているのはユニバーサル書体で読みやすくなっております。片仮名や漢字表記については、ほとんど同じでございました。漢字には、いずれの教科書にもルビがついてございます。ただ、東書につきましては、上巻では平仮名のみの表記となっております。

それでは、各教科書ごとに説明をさせていただきます。まず、東書についてでございます。内容については、紙面の右側の定位置の爪や吹き出し、「やくそく」、加えて単元の中のさまざまな〇〇ずかん、例えば「いきものずかん」、「かんさつずかん」などがございますけれども、その図鑑で生活に必要な知識、技能が示され、習得させる工夫が見られます。また、単元によっては学びを深める項目が設定され、対話を通して思考を表現し、深める関係が例示されてございました。

資料についてです。巻末の「かつどうべんりてちょう」というものがございますが、考えるヒントや、気づいたことを整理して表現する、例えばまとめ方、伝え方など生活科で学習する習慣や技能をまとめて提示してあります。また、多様な表現活動や交流活動に活用できるようになっております。特に上巻の巻末、最後のほうにある「ポケットずかん」というものがございますけれども、これには各季節で見られる主な植物や昆虫などが実物大で表されています。これは取り外しができるので、教室から持ち出し、その動植物を探したり調べたりすることが可能になっています。

表記についてでございます。国語との関連から、学習カードだけではなくて、吹き出しも言葉も文頭は1文字下げて表示されています。小単元、「やくそく」、「どうぐ」、「手あらい」マークなど、同じ位置に提示されています。紙面が、児童の思考の流れがわかりやすく構成されていますので、全体的に多くの情報が見やすくなっています。そのため、唯一A4判の大きい教科書になっています。

4番目、総括についてでございますが、日常生活とのつながり、他教科との関連、幼児教育とのつながり、学びへのつながりについてでございますが、紙面右端に他教科、例えば国語科や算数科の効果的な活用例を分類して掲載されております。児童が学習効果を教科横断的に生かそうとする意識を持てるような工夫がされています。特に巻末の校外学習単元では、社会科につながるような空間認識の広がりも視覚的に提示されております。下巻の例えば24ページ、25ページなのですが、このように社会科につながる空間認識の広がりも視覚的に例示しています。さ

らに、幼児期の学習との連携については、スタートカリキュラムというものがございいますが、上巻のほう、紙面の大きさを若干変えて取り上げられています。

続きまして、大日本でございします。大日本は、習慣や技能を身につけられるよう豊富な資料が掲載されています。特に下巻の大単元「自分のはっけん」では、これまでの学習内容を自分とのかかわりで捉え、今後の生活に生かそうとする思考、表現や自信の育成に役立つ工夫が見られます。この中で「きらきらことば」や「せいかつのことば」を設け、交流を深めるための言葉を紹介し、児童の語彙力向上とともに、豊かな表現力を育成し、表現活動の充実が図れる工夫がございします。

2、資料についてでございします。巻末の「がくしゅうどうぐばこ」、動植物や道具の使い方や安全に関する情報などが紹介されています。折り紙やクッキングの情報も多く、他社との違いがございします。また、上巻のほうですけれども、「たんけんカメラ」とか、あるいは下巻のほうに、最後のほうなのですけれども、「透明シート」を設けておりまして、児童の興味関心を高める工夫がございします。また、白黒の写真や絵のページがございします。これは、色を想像したり、実際の色を観察したりする楽しさを感じ取ることができるように工夫しています。これは、他社にはない工夫になっています。

表記についてです。風船マークで、具体的な活動目当てがわかるようになっています。児童の思いやつぶやきを、吹き出しで見やすく表現しています。文字については、上巻の初めから片仮名と平仮名の表記を使用しており、片仮名にはルビがつけられています。例えば、上巻の19ページの最初のほうなのですけれども、片仮名が使われていますが、ルビを振っているところがございします。ここも発達段階が考慮されています。これも、他社にはない点でございします。

4番、総括についてです。スタートカリキュラムにおいて、仲間づくり活動を軸に系統的に学習を進められるように工夫されています。他教科との関連的資料が効果的である箇所、教科名が明記されています。下巻、巻末「がくしゅうどうぐばこ」では、他国の文化、または調理、リサイクルについても掲載されています。食育や環境教育への関心も高められるような工夫があり、学習の広がりを持たせています。

続きまして、学校図書でございします。各ページの中に、例えば「ものしりノート」というものがございしますが、ページで言うと上巻21ページとか25ページなどに、各ページに「ものしりノート」がございします。この「ノート」に、必要な知識、技能の内容がまとめられております。具体的には、種のまき方や、春の遊び、秋の遊びなどでございしますが、また巻末「学び方図かん」は、身についた知識、技能を自分でチェックして評価できるように工夫されています。また、学習の課程は4段階、「どきどき」、「いきいき」、「ふむふむ」、「にこにこ」で構成され、振り返りの場面では、児童の考えなどのまとめがその後の生活と結びついた内容へとつながるように提示されています。児童が自己の発展的な活動に取り組んでいけるような工夫が見られています。

2、資料についてでございします。上巻のほうに、例えば30ページをご覧ください。図鑑のよう

な鮮やかなイラスト画で、この場合はアサガオなのですが、その他トマトやドングリ、夏の虫、冬の鳥が掲載されています。児童の主体的な活動を支援する、先ほど申し上げた「ものしりノート」や「学び方図かん」が充実しており、子どもが自分で活動を広げていけるように配慮されています。「ものしりノート」にあるQRコードとリンクさせることにより、さらに説明が充実したものになっています。

3番目、表記についてでございます。低学年の児童も学習内容が理解できるように、単元類別をマークや色で統一し、見出しの脇に表記され、わかりやすくなっています。記録例は、文字数などに発達段階の配慮があり、また教師の朱書きがあることで、若い教師にとっては指導のポイントがわかり、児童にとってもまた記録の目安にもなっています。例えば、上巻の24ページにありますけれども、このように教師の朱書きがあるというのは、他社にはない工夫です。また、栽培単元の中の写真は、対象が見やすくなるように大きく迫力のあるレイアウトになっています。例えば、29ページをおあげください。ここにアサガオの、つぼみから膨らみ始めて開き切った写真がありますけれども、他社にも同じような写真は載っていますが、このように迫力のあるレイアウトで載っているのは、学校図書さんの工夫が見られる点かなと思います。

4番、総括についてです。主に表現活動を中心に、他教科との関連が図られ、相互の学習効果が高められるように工夫されています。また、下巻「まちたんけん」では、身近な福祉関係の設備や、そこで働く人々の存在に気づくよう配慮されています。そのことが総合的な学習や人権、福祉教育などの関連に効果が期待できます。さらに、季節の学習単位では、日本各地の行事を多く取り上げており、学習の広がりがあります。

続きまして、教育出版でございます。内容についてです。各ページに、6つのアイコンで力が示されております。例えば、「きづく」とか「じぶんでできる」、「かんがえる」、「ちょうせんする」などです。そのことによって、児童もつけるべき技能を自覚しつつ学習を進めることができる構成になっています。「やくそく」、「できるかな」、また巻末の「学びのポケット」の設定により、身につけるべき知識、技能が明確に示されています。特徴として、また上巻の87ページをご覧ください。思考ツールを取り入れた板書例を用いて、児童の思いや活動と指導内容のつながりが意識しやすくなるように工夫がされています。

2、資料についてでございます。巻末「学びのポケット」で、生活科での学びと他教科の学びを相互に活用する例が示されています。さまざまな種類のドングリやセミの抜け殻の写真をクイズ形式にして載せ、答えのありかを探す、そういう仕掛けがあります。また、各単元のページの右脇にヒントコラムが設けられており、これによって多様な学習活動が繰り返し行えるような工夫がございます。例えば、19ページに「ヒント」という右側にコラムがありますけれども、これがいろいろなところに出てきています。

また、3番、表記についてでございます。学習の見通しとなる小見出しは、例えば「どこから

めがでるのかな」とか、「どんなふうにおおきくなるのかな」など、いずれも児童に問いかけの形になっており、児童が自分とのかかわりで学習を促せるように設定されています。また、はてなキャラクターがあるのですけれども、その問いかけが活動の意義や気づきの質を高める言葉で表現されています。また、サイコロ、タイトル、見出しの文中の語句は色分けされ、焦点化されています。太いゴシック体での表記、挿絵の色彩豊かで、フォントの種類も多くなっております。

総括でございます。下巻のコラム「はってん」で、3年生の理科、社会科へつながりを具体的に示しており、系統性が意識されております。また、巻末「学びのポケット」にて教科のマークを用いて他教科との関連を具体的に示しているため、意識させたい力をつけさせやすくなっています。例えば、上巻の127ページですけれども、「学びのポケット」のところには関連する教科名を載せてございます。

続きまして、光村です。学習課程が「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」の3段階で構成されています。この構成になっているので、学習活動がわかりやすくなっています。例えば、上巻の28ページ、「見つける、花を育てる、やってみる、思い出す、もっとやってみる、次につなげる」という構成になっています。必要な知識、技能は学習の学びの中で自然と身につくように、意図的な吹き出しが多く記載されています。例えば、32ページ、ここにはふかふかにすると芽が出やすいですねとか、たっぷり水あげようとか、チョウチョみたい、毎日大きくなるね、くきの色がちがうねなど、そういう意図的な吹き出しがされているのだと思います。また、それらの吹き出しとあわせて、「どうすれば」というコーナーが36ページにもありますけれども、「どうすれば」のコーナーとか、はてなマークで気づかせることと、教えるべき知識、技能が区別して提示されています。

2、資料についてです。巻末資料ページの「きせつのおくりもの」で、見開きで季節ごとの四季の風景や動植物の様子を写真やイラストで載せてあります。子どもが身近な季節の移り変わりに気づいたり、そこから自分の生活につなげたりする工夫がされています。巻末の「ひろがるせいかつじてん」、これは上下巻ともにありますけれども、防災や安全の生活上必要な習慣や体験活動や表現活動の例示がイラストで記載されています。

3番、表記についてです。特に導入の「ホップ」のところでは、児童が自分とのかかわりから学習を捉えられるような、日常生活やこれまでの学びにつなぐ問いかけがあります。吹き出しには、児童が親しみやすい、とめ、はね、はらいがわかりやすい手書き文書体を採用しており、文字の大きさ、書体とも見やすくなっています。

4番、総括です。文字情報量が多く、国語科との関連が強いと思われます。ですので、言語能力の向上につながることが期待されます。また、上巻で長期休業前に、それまでの学校生活を振り返る場面設定も、光村にはございます。さらに、上巻の136ページ、下巻の96ページをご覧ください。例えば、下巻の96ページでございますが、1年間の自分の成長をまとめて振り返るために、

この上下巻ともに各単元のまとめを記載したシールを巻末にまとめて貼り直す見開きの「ジャンプ大しゅうごう」というページが設定されています。これは、いずれも次年度への接続を意識した振り返りに活用できるものになっています。

では、続きまして、啓林館でございます。内容についてです。啓林館も「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階で単元が構成され、単元の初めの「わくわくボックス」では、児童の心を揺さぶり、対象に直接働きかけ、意欲を高めるような投げかけになっています。単元末の「ぐんぐん」では、交流や伝え合いで学習を振り返る場面を写真などで示しています。また、みずからの成長や学びの深まり、満足感や成就感を実感し、生活全般に生かせるように「ひろがるきもち」のコーナーや、「できるかなできたかな？」のコーナーが設定されています。

2番目、資料についてです。上巻の「わくわくボックス」で、昆虫や果物を実物大で掲載するなどの工夫があります。例えば、上巻の74ページ、ここには「あきはどんなきせつかな」のページがあるのですが、果物ですとか昆虫が実物大で掲載されています。また、巻末の「がくしゅうずかん」には、調べ方や記録の仕方など、多様な学習活動や表現活動に必要な知識、技能が一覧でわかりやすく示されています。また、安全や道具の使い方などの紹介もございます。

3番、表記についてです。児童に親しみやすい3つのキャラクターの吹き出しで、活動や気づきを広げたり、学習を深めたりするためのヒントや着眼点が示されています。小単元名、本文、カード例、めくりの言葉などのコーナーが原則的に固定されていて、読みやすい構成になっています。また、単元が日常生活から始まるようにして、これまでの児童の経験を大切にするような構成にもなっています。

4番、総括です。上巻初めなのですが、ミニブック、また下巻の終わりにもミニブックがあるのですが、このようなものですが、上巻初めのミニブック、「がっこうだいすきあいいうえお」というものがございます。これはスタートブックとして設定されています。また、下巻には後半のところに、「3年生へのステップブック「みらいにむかって」」というミニブックもございます。いずれも接続期の学習を充実させ、また将来の夢を育む構成となっています。また、単元が3段階構成になっていることもあり、特に「まちたんけん」の学習では、インタビュー場面で人々のコメントから、思いや願いが伝わる文章表現や写真が用いられていますので、社会科の学習への発展や、総合的な学習の関係プロセスを意識したつくりとなっております。各ページには教科名を載せて、各教科との関連も図られています。

最後に、日文でございます。例えば、ページ下の水色の爪、例えば上巻24ページですとか26ページなどに水色の爪や、また各単元の「ポケットずかん」の設定がございます。また、巻末の「ちえとわざのたからばこ」では、必要な知識、技能が確認できるようになっています。豊富な挿絵や写真、吹き出し、表現作品があり、それらで目指す児童の活動や姿が示され、意欲や自信を持って学習したりすることができる構成になっています。また、「学びのまど」で対象にかかわった

りしたことを振り返ることができる構成にもなっています。

資料についてでございます。先ほど申し上げた巻末の「ちえとわざのたからばこ」では、生活の学習で参考となるスキルとか、安全や生活習慣について紹介をされています。また、下巻の裏表紙でございますけれども、これは特殊な印刷により、直接点字を体験できるページが設定されています。この最後の裏表紙の中ですが、こういう体験できるページや、また上巻の40ページ、42ページ、44ページのように数ページを山折りすることで、種、葉、つぼみ、花の植物の成長の過程が一覧できるようなページの工夫がでございます。これは、他の教科書にはない工夫になっています。

続きまして、3番、表記についてです。国語との関連から、学習カードだけではなく、吹き出しの言葉も文頭を1文字下げて表示されています。また、単元がわかりやすいように、シンボルマークと色で見やすくなっています。発表やまとめはイラストで、直接対象に働きかける活動の写真で掲載し、児童の意欲を喚起できるものに工夫されています。

そして、4番、総括でございます。左下に、生活科の学習目当てが3つのアイコンと言葉で示され、見通しを持って学習することができるように工夫されています。各活動に設定された「学びのまど」、これ「振り返る・つなげる」というコーナーですけれども、それにより比較したり発展させたりする視点が絞られ、日常生活など学習の広がりを持たせる設定になっています。また、3年生以降の学びへの円滑な接続を図る工夫として設定されたページには、外国語教育や音楽など多岐にわたる例示がされており、つけた力をイメージしやすいものになっています。

以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず初めに選定委員会としてどの教科書を推薦するか、説明をお願いします。

齋藤選定委員（増林小校長） 選定委員会では、協議内容、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が7種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍、73点、4番、大日本図書、51点、11番、学校図書、77点、17番、教育出版、54点、38番、光村図書、53点、61番、啓林館、52点、116番、日本文教出版、48点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、77点の学校図書、73点の東京書籍、54点の教育出版を推薦いたします。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 選定委員会では、他にどのような話題が出ましたでしょうか。

沖田選定委員（大相模小校長） それでは、選定委員会で話題に出た内容については、生活科では、特にスタートカリキュラムについて話題になりました。幼保小の連携がクローズアップされているわけですが、その中でどのようにスタートカリキュラムが扱われているかが大事なポイントであるという意見が出されました。また、どの教科書会社さんもスタートカリキュラムについては意識してわかりやすく構成されており、円滑に小学校の学習につながるような工夫がされていました。

また、保護者の手を離れて子どもたちが登校班で通学するようになりますので、その中で安全指導や防犯についてどのように扱われているかという話題が出されました。これは、先ほど申し上げた、さまざまな教科書でスタートカリキュラムがございますけれども、そのスタートカリキュラムの中に安全、要するに交通安全、防犯あるいは防災について触れられているところもございますが、巻末資料の中に、例えば自然災害あるいは不審者対応、「いかのおすし」などについてが記載されているところもございます。熱中症のことや、危険な動植物への注意喚起をしている教科書会社も幾つかございました。

3つ目としては、また生活科と他教科とのつながりについても話題になりましたので、これは先ほど申し上げたように社会科や理科につなぐような記述も大切な視点の一つであるという意見も出されました。

以上でございます。

堀川委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 学校の調査報告書ではどの教科書会社の推薦が多かったでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

沖田選定委員（大相模小学校長） それでは、お答えいたします。

学校からの推薦では、学校図書を推薦する学校が最も多く、16票でございました。続いて、東京書籍の12票、そして光村の6票という結果でございました。

推薦理由といたしましては、学校図書では児童の活動を支援する「ものしりノート」、「学び方図かん」が充実していてわかりやすい。また、「ものしりノート」で教師が指導すべき内容がわかりやすく示されており、生活上必要な技能が身につくように工夫されている。「かんさつシート」の書き方も、見本が豊富であるなどの記載がございました。

また、東京書籍では、以前より大きな紙面となり、写真やイラストがたくさん掲載されている。
また、学びのプロセスが提示されているため、学習の見通しを持ちやすい。単元や授業の問いが大きく表示されており、授業の課題がわかりやすい。植物の種、芽、花の成長と種類の違いが一目でわかるように写真などが工夫されているなどの記載がございました。

光村図書については、教科書に載っている子どもの声が具体的でわかりやすい。子どもの思いや願いが高まる内容となっている。紙質がよい。イラストに温かみがあり、低学年が扱いやすそうである等の記載がございました。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 1点お聞きしたいのですが、学図の教科書に掲載しているカードには先生の朱字を全て入れてあり、子どもの気づきを価値付けているように配慮されているとあるのですが、これは朱書きが書いてあることで、子どもは何に気がつくのですか。

沖田選定委員（大相模小学校長） 朱書きがあるということで、このような視点で教師が指導しやすいということが、教師側にまず理解が進むので、それを理解した教師が子どもへの指導に生かせるということで、子どもにとってもそういう見方や気づきがやはり好ましいというか、理想的な内容だということが伝わりやすいということで、先生方にとって使いやすいということは、子どもにとっても大いに学習効果を高められるということで、使いやすいのではないかなということです。

渡辺委員 わかりました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ質疑を終わります。

齋藤選定委員長（増林小校長） 済みません。今、部長のほうから学校からの推薦の表のお話があったのですが、光村を6票というふうに報告したかと思うのですが、一覧のほうを見ますと7票入っておりますので、訂正させていただきます。

以上でございます。

吉田教育長 ご訂正のほうをお願いします。よろしいですか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長 それでは、質疑を終わります。

続いて、協議に入ります。

まず、調査の観点1、内容についてご意見ございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 先ほど選定委員さんからのご報告にもありましたように、スタートカリキュラムとも関連していることでありますが、新しい環境への期待と不安でいっぱいの子どもたちにとって、どの教科も生活上必要な習慣や技能が身につくように工夫されているなと思います。

例えば、東書は、「手あらい」、「うがい」、「ちゅうい」、「どうぐ」などマークをつけていて、マークが活動する際にわかりやすいと思います。

学図は、巻末の「生活科学び方図かん」で活動の基礎となる内容がまとめられていて、技能の習得が図れるように工夫されていると思います。

教出は、「学びのポケット」や生活科と教科の連携が意識できるような内容になっていて、幅広い学習活動が例示されています。また、クイズを通して新しい知識が身につくように工夫されています。

どの教科書にも挿絵や写真、吹き出し、作品例などで、さまざまな学習活動例が載っています。子どもたちの気づきを促す工夫がされているなと感じました。いろいろな表現の場や話し合いの場面が設けられていて、子どもたちの気づきが高められると思いました。

吉田教育長 生活科では、活動や体験を通して自立への基礎を養うことを教科の目標として、したがって生活科では気づきを大切に、その質を高めることを重視しているということでしょうか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長 いいですね。また、この気づきの質が高まることによって課題解決が進み、次への活動につながっていくことになる。したがって、教科書を使って座学で教えるということはまずないのだろうと、余りないのだろうというふうに思います。

生活科が出てきた当初は、教科書はありませんでした。ただ、教科書がないと何をやっていいかわからないという声もあって、あるいはどんなことに注意したらいいか、どんな点に重きを置いて生活科を進めていったらいいかわからないというような声もあって、教科書ができてきたのかなというふうに思いますが、そこで子どもが気づきを繰り返すことで、その質を高めていくことに着目して、さまざまな活動や体験をさせる中で、つぶやきを大事にして、それを広げながら、見つけるとか比べるとか、さまざまな学習活動を充実させて、その中で人として気づきを高めていく。

こういうことが必要になるというふうに思うわけですが、そうした観点からどうなのかなというところで見てみたのですけれども、学図では例えば上のほうで見ると5ページですか、ここに吹き出しみたいにしてつぶやきが出ています。この吹き出しみたいなものは、いろんなところに出てきているわけですが、さらに6ページに行くと「みつける」というような学習活動、8ページ目に行くと「はなしあい」、さらには10ページ目に行くと「はなしをきく」、さらに13ページに行くと「なかまからきく」と、さらには23ページ目に行くと「くらべる」、ここにもたくさんの吹き

出しがついている。これは、子どもの気づきと捉えていいのかなと思うのですが、27ページでは「こまったらはなしあう」とありました。さらに、87ページでは、下のほうに「しずかにね、そっとね、しゃがんでね、やさしくね」といったさまざまな活動が例示されていると。こういうのは現場から、生活科をやる先生方にはいろんなことが見えてきて、使いやすいのかなというふうに思います。

他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、今教育長からもお話ありましたけれども、気づきを大切にするということで、意欲づけをする、活動より意欲づけという点で、今現場からの声ですと、学図さんと東書さんのほうが大分推薦が挙がってきているというのでは、写真やレイアウトに迫力があったり、わかりやすさではやはりその2者というのは結構大きい写真とかうまく使って、メリハリのあるつくりになっているのかなというふうに思いました。そうすると、大きさになると、今度は東書さんのやつが一番大きくて、これが使い勝手はどうかなという話はきっと、もしかすると現場では出てくるのかなというふうには感じました。

また、写真が大きくて、意欲づけとかメリハリもあっていいなと思う反面、あと約束事とかも結構きちっと押さえてあって、安全面の配慮とかマナーとかについてもよく書かれているのかなというふうに思いました。例えば、これは学図の44、45ページあたりでは「いっしょにあそぼう」ということで細かい写真を幾つか掲載して、楽しい雰囲気の写真を掲載しながらも、どうすればいいかなということで、下のほうでは「ちゃんと順番を守りましょうね」とか、「赤ちゃんがいたら静かにしてあげましょう」とか、「あいさつをしましょうね」ということを何気なく入れて、そういった細かい配慮もされているのだなというふうに思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、協議を続けますが、資料、表記、表現、総括についてご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

荒木委員。

荒木委員 生活科では、やはり日常生活とのつながりが大事になると思います。学校で学習したことを、家で保護者と話してほしいなと感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、他の観点での協議ということでは何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより生活の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、野口委員、堀川委員を指名いたします。

〔立会人立ち会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行の者番号、発行者名、評価点の合計について、登録番号順に読み上げます。

2番	東京書籍	25点
4番	大日本図書	19点
11番	学校図書	30点
17番	教育出版	21点
38番	光村図書出版	20点
61番	新興出版社啓林館	19点
116番	日本文教出版	18点

以上のとおり小学校生活の教科用図書は、11番、学校図書を採択することに決しました。

小学校算数の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 算数の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

尾板選定委員（平方小校長） それでは、算数の教科用図書についてご説明させていただきます。

発行者としましては、全部で6社となっております。それぞれのよさにつきましては、お手元

の調査報告書のほうにまとめさせていただきましたが、そちらだけではお伝えしづらい各社の特徴的な部分につきまして、実際にページをご覧いただきながらご説明させていただきたいと思います。

では、まず初めに東京書籍です。1年生の上巻①というものがお手元にありますでしょうか。そちらをご覧ください。こちらの一番の特色は、幼小接続期への配慮の一つでございます。1年生のいわゆる上の教科書でございますが、こちらでは上下ではなく、①、②というふうにされておりまして、他社とは異なります、このようなつくりになってございます。見ておわかりのとおり、全6社の多くがB5判であるのに対しまして、こちら1年生の①のみ、より大きなA4判となっており、こちら小学校1年生の授業で児童が最初に数を学ぶ際に行うブロック、こちらに用意していただきましたが、このようなブロックを実際に教科書に置くということを踏まえた広い紙面、こちらを用意してございます。また、ほとんどが書き込み式になっており、入学当初の1年生が教科書とノートを頻繁に入れかえることのないように工夫をされております。

こちらの最大のよさは、4ページ、5ページをお開きいただきたいのですが、こちらのような場面で、先ほど申し上げましたブロックを実際に例えばチューリップの上に置いて、チューリップの数を数えようと置いていく際に、こちら、このとじ方が中とじとなっておりますので、机の上が平らになっていれば、このブロックがそのまま置けるのですね。これが従来のものでありますと、どうしても開くと教科書が曲面になってしまいますので、子どもの狙った場所に置けないということが、実際の授業の中ではございます。実際の授業におきまして、児童がブロックを自分自身の思いどおりに置いて動かして学んでいくことは、理解を深める際に非常に重要であり、こちら学校現場の実態を踏まえた工夫であると言えます。

では、続きまして、次に大日本図書でございます。5年生の教科書の153ページをご覧ください。こちらの特色は、5年生の「混みぐあい」など数値や図が見やすくなっていることが挙げられます。また、統計に関する学習を全学年ともに1学期に配置することで、夏休みの自由研究等で学習内容が活用できるよう単元の並び方が工夫されております。

また、4年生の教科書の11ページをご覧ください。よろしいでしょうか。そちらの折れ線グラフの単位では、教科横断的な視点として理科の学習とのかかわりを特に意識したつくりとなっております。1ページめくっていただきますと、折れ線グラフ、理科の教科書にもございますような、そのようなグラフが載っております。また、全学年が1冊本となっているのは、6社の中でこの大日本図書だけでございます。

続きまして、学校図書でございます。2年生上巻7ページをご覧ください。表紙をめくってすぐ、目次の次あたりになりますが、こちらの特色は、「どうしてそうなるのかな」、「きまりはあるのかな」などの数学的な見方、考え方を9つに分類し、こちら「考え方モンスター」と称しまして教科書のあちこちに配することで、児童がその考え方に気づき、活用しやすいようにしてござ

います。教科書の大きさにも特色がございまして、全冊がB 5判よりやや大き目の正方形に近いA B判となっており、B 5判に対しましてゆとりのある紙面づくりとなっております。

また、別冊としまして、6年生の最後に扱う「中学校へのかけ橋」というものが用意されております。こちらの2ページ、3ページをご覧ください。先ほどご説明いたしました9つの考え方モンスターが、やはりこちらにも記してございまして、小中の丁寧なつながりについての配慮がなされております。

続きまして、教育出版でございまして、3年下の40ページをご覧ください。こちらの特色は、それぞれの単元における典型的な間違いが起こりやすい問題について、よくある間違いや考えるヒントを用意することで、つまずきのための支援ができるようになっていることとございまして。具体的には、40ページの一番下、「よくあるまちがい」のところとございまして、 2 メートルを4等分した長さは4分の1メートルではない」ということについて注意を促しております。児童が、4等分すればそれが全て4分の1。4分の1メートルというふうに勘違いする場面が多うございまして、そちらの場面において注意を促しておる教科書の工夫でございまして。

また、5年生の教科書の228ページをご覧ください。よろしいでしょうか。こちらが、プログラミング教育の中で、他社の多くがマサチューセッツ工科大学で開発されたスクラッチというプログラミング言語を利用しているのに対しまして、スクラッチより簡単に扱えるとして自社開発のプログラミングツールを使つての授業を行うようになっております。

続きまして、啓林館のご説明をさせていただきます。3年の下、15ページをご覧ください。児童が苦手な「割合」について、3年生から一貫して15ページ一番上、黒板の図、緑の部分とございまして、図の描き方を統一して、この関係図として扱うことで数量関係をつかみやすくさせ、掛け算や割り算など、どのような計算で答えを求めればよいのかを考えやすくしております。また、その際の何算で求めるかにつきまして、1年生ではブロック図、2年生ではテープ図、3年生以降は線分図として統一的に扱うことで、児童の理解を助けております。

また、5年生の教科書98、99ページをご覧ください。あちこちに小さな赤い星のマークのついた問題とございまして。こちらは、全国の学力調査の結果を受けまして、子どもたちの間違いやすい問題に印がついております。このように問題の難易度の示し方に工夫をしまして、さらにはこちら数と計算、図形、データの活用のように、見開き2ページを3分割することでモジュール学習への対応も準備された教科書となっております。さらに、統計に関する学習内容を夏休みの自由研究等で活用できるよう、統計の単元を極力各学年の1学期に配置しております。

最後に、日本文化出版です。5年生の上、30、31ページをご覧ください。31ページのほうが折り込み式になってございまして、全体としましては、まず左ページでの出題、そしてこれを解決するための右ページの赤の附箋のような部分の「見方」、青の部分の「考え方」、緑の部分の「方策」の各手がかりを示し、自身で見通しを立てさせることで、子どもたちが主体的、対話的に学べる

授業展開を狙った紙面構成を用意しております。

また、4年生の上、85ページをご覧ください。85ページ一番下にあります「まちがしやすい問題」、こちらの様に単元末に、全国の学力調査や各地域の学力調査で誤答の多かった間違いやすい問題を用意しまして、苦手な内容やつまづきやすい内容について理解を深める工夫がなされております。そちらの小数につきましては、四角1番の①の場合、小数点を場所を考えずに単純に4桁の数で比べてしまう、あるいは四角1の②であれば、0.何々はとても小さい数なので、ゼロよりも小さいと思い込んでしまうこともあります、そのような子どもたちの間違いに気づかせる仕組みとなっております。

全体的にしまして、各社ともに項目1、内容につきましては、導入にこれから学習する単元に応じた日常的な事象を取り上げることで、スムーズに学習に入っていけるようになっており、問題解決的な学習を用いることで主体的、対話的な学びを構築しております。加えて各単元に十分な問題量があり、単元に入る前の復習問題や、単元終了後の確認、発展問題も充実しております。

また、項目3、表記・表現につきましても、重要語句が太字で書かれ、当該学年の漢字には見開きごとに振り仮名がついているなど、各社ともに発達段階に応じた配慮がなされております。また、ユニバーサルデザイン的にも工夫がなされており、ユニバーサルデザインフォントの導入やシンプルなページ構成、色覚特性に配慮した色使いなど、各社において見やすさについての配慮がなされております。

また、算数科の領域Dとしまして、データの活用が重視されておりますが、そちらにつきましては各社ともに、おおむね1年生では数を整理して数える、2年生では簡単なグラフや表をつくる、3年生では棒グラフ、正の字を使って数える、4年生では折れ線グラフ、二次元の表を用いる、5年生では平均、帯グラフ、円グラフについて学ぶ、6年生では中学校より移行してまいりました度数分布表、柱状グラフの考え方、並べ方、組み合わせ方について学ぶという点で、おおむね全社ともに一致しております。

以上、各社ごとにご説明をさせていただきました。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行いたいと思います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を願います。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず初めに選定委員会としてどの教科書を推薦するか、ご説明をお願いします。

齋藤選定委員長（増林小校長） 説明の前に、1点今の部会長のほうの報告から訂正を1点お願いいたします。

略称「日文」を「日本文化」というふうに今言いましたけれども、正式には「日本文教出版」ですので、おわびし、訂正のほうをよろしく願いいたします。

それでは、選定委員会では、協議内容、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が6種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍、79点、4番、大日本図書、51点、11番、学校図書、52点、17番、教育出版、51点、61番、啓林館、67点、116番、日本文教出版、50点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、79点の東京書籍、67点の啓林館、52点の学校図書を推薦いたします。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 選定委員会ではどのような話題が出ましたでしょうか。

尾板選定委員（平方小校長） ご説明させていただきます。

選定委員会では、大きく次の2つの話題がございました。1つ目が、教科書が子どもたちの発達段階に合わせたものとなっているかでございます。こちらにつきましては、各社とも全般的に低学年は具体的に、中学年は抽象的に、高学年は一般化を図ることができるようにつくられており、どの社の教科書につきましても適切であるとなりました。

2つ目が、プログラミング教育についてでございます。プログラミング教育につきましては、今回の学習指導要領では算数や理科などで例示されております。プログラミング教育は、本来、ある課題を解決するためにどのような手順が必要であるかを考える合理的思考力を養うものであり、算数では各社ともに5年生の「図形の性質」の単元で主に扱っております。また、その内容としましては、スクラッチというプログラミング言語を体験するものが多く、ページ数としましては、1ページで簡単に触れているものから、5ページを割いて大きく取り上げているものまでございました。また、社によっては1年生から扱い始めているところもあり、各社の工夫がございました。

以上でございます。

吉田教育長 よろしいですか。

他にございますか。

進藤委員。

進藤委員 学校の調査報告書では、どこの教科会社の推薦が多かったでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

尾板選定委員（平方小校長） 学校からの推薦では、東京書籍を推薦する学校が最も多く28票、次いで啓林館の10票という結果でございました。

推薦理由としましては、東京書籍では1年生の教科書の大きさやとじ込み方が工夫されていて使いやすい。数学的な見方、考え方が指導しやすい。補充の問題が充実している。問題解決学習の流れがわかりやすく、児童にとって思考の流れがわかりやすい。練習問題も豊富で、児童が技能を身につけられる。「割合」に関する単元では、系統立てて図を重視して定着を図っている。学力調査で正答率の低かった問題も取り入れるなど考慮している等の記載がございました。

また、啓林館では1年生の足し算、引き算の問題場面で絵の上にブロックを置く際、絵が大きくわかりやすいため活動しやすい。問題解決的な学習の取り組み、ノートの手書きの例、主体的で対話的で深い学びを実現するための授業づくりを意識した構成になっている。イラストなどが工夫されていて、作図などの説明も丁寧である。「めあて」と「まとめ」がわかりやすく書かれている。数学的な思考を深めるのによい内容となっている等の意見がございました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 6年生の教科書は、全社1冊だったと思います。大日さんだけが1年生から6年生まで1冊だったと思うのですけれども、5年生の教科書になりますと分冊、2冊になっている社が3社と、あと1冊が3社だったと思うのですけれども、この辺のことについて、何か現場のほうでご意見等ございますか。

尾板選定委員（平方小校長） 選定委員会のほうでは、特に大きな話題とはなりませんでした、1冊であることにより、それまでの上での流れが下でわかると。前半の流れが後半でもわかるので、2冊用意しなくても振り返れるというようなよさがございます。逆に1冊にまとめることで、どうしても厚く重くなってしまうので、扱いについて難しいという点があると思われます。以上でございます。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 あとご説明の中でありましたモジュール学習について、少し教えていただきたいのですけれども。

尾板選定委員（平方小校長） では、お答えします。

モジュール学習といいますのは、本来小学校の授業は45分1コマでございますが、それを10分から15分程度に分割して行う学習のことでございます。先ほどは3分割するということで、15分、15分、15分、例えば朝学習の時間帯とかにその15分を取り入れることで、1つの授業を3日に分けて、3回に分けて1時間分を学ぶと、そういうような学習の仕方をモジュール学習と申します。

渡辺委員 そういうことに対応できた教科書であるということですか。

尾板選定委員（平方小校長） 区切りがわかりやすくできているというふうに申し上げたほうが簡

単かもしれません。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他になれば質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 先ほどの選定委員さんのご説明にもありましたけれども、どの教科書も導入に日常生活に関連した題材が用いられて、それから問題提起をして、単元の初めに、まずこれはどういうことだろうというふうに子どもに問いかけて、そこから興味を引き出すというような工夫がしてあって、主体的な学びを促せるのではないかなというふうに思いました。特に見ていて思いましたのが、教育出版さんにおいては、これはどうなるのかということに対して、解決して、なるほど、ではこれはどうだろうかという形で、次から次へと連続して問いを、1つのことに対して問いを投げかけてきて、恐らく子どもたちは主体的に学ぶことができるのではないかなというふうに思っていて、これはもう理解している子にとっては、もう次から次への投げかけというのはすごく興味を引くと思いました。私も読んでいて、どんどん入っていくというような印象がありました。

あと、おもしろいなと思ったところが、日文さんなのですけれども、こちらの一覧は基礎・基本の定着がすごくできるのではないかなというふうに思っていて、単元の始まる前に、まず「次の学習のために」というふうに復習の問題等が入っておりまして、実際の単元に入って、「まとめ」のところで、「わかっているかな」というところがあって、先ほど選定委員さんの説明にもありましたけれども、「まちがしやすい問題」というのがかなり大きく取り上げられておりまして、最後に「たしかめポイント」ということでまとまっていて、これは定着が図れるのでよいかなというふうに思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、今のご説明の中にもありましたけれども、内容の中では問題解決的な学習については各者とも大変によく取り組んでいるといたしますか、展開がしっかりできているなという印象を私も受けました。ひところ教え込むような授業が多かったですけれども、今市内の授業を見ていても、自力解決から練り上げ、まとめ、練習というようなパターンが定着しているなということで、どの会社でもできるのだなというふうに思いました。

ただ、1点日本の算数教育で、小学校の中で一番の難しいのは私は分数の計算だと思います。計算の仕方ではできるけれども、立式をしたりとか、意味を考えて解くとかということについては、非常に学力調査等をやってもなかなか身につかないというところがあるかなと思います。東書においては、6年生の55ページから「分数のわり算を考えよう」ということで出ているわけですが、東書はやはりこのところを立式までが非常に丁寧に取り組まれているかなという印象を受けました。どんな式を書けばいいかなということで、なかなか分数わる分数の問題場面というのは日常生活であるかという、そうないことですので、かなり恣意的につくるような問題がどうしても多くなってくると思うのですが、そこのところで整数ならばこういう割り算になったから、分数ならこうだなというようなこととか、そのあたりを2ページ割いて丁寧に扱っているということで、こういったことを丁寧にやっていかないと、なかなか子どもたちに思考力がつかないのだろうなというふうに思います。

私思うのは、いわゆる中学校の一次方程式の基礎だと思うのですよね。結局掛け算の中の掛けられる数、掛ける数がどっちかわからないから、割り算に持っていった方がいいのではないかとかなというように、そのあたりを丁寧に扱っているなという印象を受けました。特に小数、分数になりますと、割り算については3年生とかで習った12個のものを3つに分けるとかと、その概念だけではいかんとも説明しがたいですので、こういった見方を丁寧に扱っているところはすばらしいなというふうに思いました。

また、計算の仕方につきましても、これ皆さんに見ていただくと58ページに、昔は面積図を使って説明するというパターンが一般的でして、私も教えたことがあるのですが、分数わる分数でなぜひっくり返るかというあたりを必死に教えたわけです、私も。でも、だんだん、だんだんこれが、喉をからして教えても理解してもらえない。最後はひっくり返せばいいのだよ、途中で約分すれば答えは合っているのだからということで終わりにしてしまうということが一般的に行われてきた算数の指導でしたので、そのあたりにも切り込んでいるのかなということで、現在は割られる数、割る数をうまく工夫して、これまで習った計算と同じように考えられないかというふうなことで、57ページあたりの解答例が出ているということで、大変このあたりも問題解決的学習、そして数学的思考方を生かした学習が展開できるようにということで工夫がされているなというふうに思ったところです。

これにつきましては、各社とも同じようにやっているのかなというふうに思いますけれども、ですから单元テストでは、分数わる分数の单元テストがあります。单元テストはできるのです。なぜかという、テストの上のところに「分数の割り算」と書いてあるのですから、これは割り算やればいいのかというものが、もう子どもだってわかります。ところが、学期末になったときに、分数の掛け算とか割り算なんかがごちゃごちゃになった問題が出ると、掛け算なのか割り算なのか区別ができないというような問題がずっとつきまとっているのです。ですので、この

あたりを丁寧に扱う会社のほうがいいのかというふうには私は思いました。

また、さらには63ページ、「今日の深い学び」というところで、今度はいろんな複合された、小数が入っていたり分数が入っていたり、割り算があったり掛け算があったりするような問題についても、結局はこれは分数でやれば計算ができるのですよということで落ちつくわけですが、いわゆる統合という考え方についても「深い学び」ということで取り入れていると。どこの会社も取り入れているとは思いますが、大変そのあたりが中学校に向けても有効なのかというふうに感じました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

なければ、私のほうからですが、先ほどの選定委員の説明の中にも出てきましたが、本市では自分の言葉でノートに自分の考えたことを書く活動を推奨しているのですが、東書の5年の上の4ページ、「マイノート」というのがあるのですが、これはところどころ出てくるのですが、友達の考えやまとめや感想、自分の考えを書いているノートの例が示されていて、本市が進めているノート指導のあり方と合致する点が見られるなと思いました。

また、重さについて話題になっていますけれども、分冊になっていて200グラムを下回っているものがありますが、それは東書の1年生の上と、日文の1年の上下で、ほかは280グラムから300グラムの間となっております。これは、1冊になっているもので最も多いのは教出の500グラム、ただし学図の「中学校へのかけ橋」、これを合わせると612グラムとなりますが、5、6年で見ると440から500グラムの間に入っている。大きな差はない、このように思います。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、資料、表現・表記、総括についてまとめてご意見伺いたいと思います。

何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 それでは、ないようですので、これより算数の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計点が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、進藤委員、荒木委員を指名いたします。

〔立会人立ち会の上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告をいたします。

投票結果については、発行者の番号、発行者名、評価点の合計点について、登録番号順に読み上げます。

2 番	東京書籍	3 0 点
4 番	大日本図書	1 8 点
1 1 番	学校図書	1 9 点
1 7 番	教育出版	1 9 点
6 1 番	新興出版社啓林館	2 5 点
1 1 6 番	日本文教出版	1 8 点

以上のとおり小学校算数の教科用図書は、2 番、東京書籍を採択することに決しました。

小学校書写の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 書写の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

西垣内選定委員（明正小校長） それでは、書写の教科書について説明させていただきます。

初めに、5つの教科書全てにおいて共通しているものについて説明いたします。調査の観点3の（2）、字体、色使い、レイアウト等についてですが、これにつきましては、いずれの教科書においてもユニバーサルデザイン化に向け、字体はUDフォントを使用しており、色使い等を工夫し、手本も聞き手によらず見やすくレイアウトしているという共通点がございます。

それ以外の観点につきましては、教科書会社ごとに説明させていただきます。まず、東書についてですが、内容につきましては書写の基礎的、基本的な知識、技能を習得させるために、「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」の3部構成がサークル状に示されており、生活での活用が重要視されていることや、らせん的に取り組むことが意図されています。例えば、（2）につきましては、目的に応じて文字を書く学習について、活用単元「生活に広げよう」というページが提示してあります。例えば、6年生のところの「生活に広げよう」という24ページにある「発表のためのポスターを書こう」というところなどは、かなりこういった形でよくわかりやすく書かれています。

(3)、書写の学び方が表記されていて、学習の流れがわかりやすく、また課題解決型の単元展開になっており、身近な教室の文字から課題を見出し、文字を整えて書くための原理原則を見つけられる構成になっております。

(4)については、第3学年以上では、ふだん書いている文字から、字を整えて書くための「書写のかぎ」を見出し、その原理原則について毛筆を使って書くことで確かめ、それらを他の硬筆文字に生かすという展開になっております。

(5)につきましては、活用单元「生活に広げよう」では、他教科の学習や特別活動等で行われる、書いて伝える活動に書写を関連づけた展開を提示しています。4年生の社会科では、4年生の24ページにあるのですが、調べたことを伝える新聞をつくろうということで、清掃工場の見学について書いてあるということがあります。また、数字の書き方が1年生のほうで26ページに掲載されているなどあります。

資料につきましては、ポイントを絞った挿絵や図を多用することで、低学年でも理解しやすいように工夫されております。また、第4学年の手書き文字と活字との字形の違いを写真や図で工夫するなど、表現に配慮されております。

続きまして、3番の表記・表現につきましては、全学年「書写のかぎ」というインデックスが教科書の左側についておりまして、用語を明確に表記しております。当該学年の漢字にはルビを振り、文章は的確、簡潔で、学年の段階に応じてわかりやすく表現されております。

続きまして、総括といたしましては、「書写のかぎ」で学びを見通すことができ、系統性を意識した学習ができるように工夫されております。また、「文字のいずみ」の部分で各学年の発達段階に応じた書写への関心を高め、学びの広がりを意識させています。さらに、古文や漢文の書き方を入れることで、学習内容の系統性を意識させるとともに、小中の連携を図っております。

続きまして、学校図書館についてですが、まず内容の(1)につきましては、「たしかめて書こう」、「考えて書こう」、「生かして書こう」、「ふり返ろう」の4部構成となっています。年間の学習の目当てが明示されていたり、新出漢字が筆順とともに掲載されたりしています。「書写の資料館」には、手紙の書き方や原稿用紙の使い方などがまとめられております。目的に応じて文字を書く学習について、総合評価を通して学習の進め方が示されています。全体的に書き込み欄が多く載せてあるという特徴があります。

(3)、低学年には課題の発見を助けるシールが設けられ、楽しさを通じて学習意欲が高まるよう配慮されています。全学年で学習の進め方が表記されていて、学習の流れがわかりやすいものとなっております。

(4)、「たしかめて書こう」、「考えて書こう」では、毛筆を用いて文字を書き、「生かして書こう」では、別の文字や言葉、文章を硬筆で書き込んで、学んだことを生かすという展開になっております。

(5)、書き込み欄が豊富に設けてあり、日常生活や学校生活の中で、書写で学んだ知識や技能を生かせるようになっております。

2番の資料につきましては、「書写のふしぎ」や「書写の資料館」で写真を多用し、鉛筆や和紙のつくり方について視覚的に理解できるような配慮がなされております。特徴的なキャラクターやシールを活用して、子どもたちの興味関心を高めながらスムーズに活動ができるような工夫もなされております。

3番の表記・表現につきましては、(1)、全学年毛筆、硬筆のポイントにそれぞれキャラクターが存在し、吹き出しで説明したり、また筆の穂先のマークを用いて筆の入り方をわかりやすく説明したりして表現しています。特にこの「筆のおじさん」がよく出てきています。

(4)、総括につきましては、第1学年でシールを活用して名前を書いて持ち物に貼るなど、日常生活とのつながりを意識させると促されていること。それから、社会科との関連としては、都道府県名を練習するページが用意されておりまして、日本地図を地方ごとに分けて掲載するなど、子どもの学びの広がり意識させる工夫が、4年生、5年生のほうの「書写の資料館」の中に入っております。

続きまして、教育出版についてですが、こちらはまず内容につきましては、1番、(1)、見開きの右ページには教材文字と単元名、左ページには学習のポイントがまとめられています。年間の学習内容、目当てが明記され、全学年、書くときの姿勢や筆記具の持ち方を振り返る場が設けられています。

(2)、目的に応じて文字を書く学習について、「レッツ・トライ」として、下書きから成果物の完成までの学習過程が示されております。例えば、教育出版の、ここで言うと5年生の30ページに、「レッツ・トライ」で委員会のポスターというのがあるのですが、こちらなどがちょうど下書きから成果物の完成までの学習過程がよく示されています。

それから、(3)、課題解決型の単元展開になっております。全学年で学習の進め方について表記されており、学習の見通しが持てるようになっております。

(4)、単元の中で、ためし書き、硬筆、ここが大切、毛筆、まとめ書き、硬筆という流れが統一されております。例えば、6年生の12、13ページ、「湖」という文字なのですがけれども、こちらなんかはいろいろと見通しが持てるような形で、写真も載っておりまして、イメージしやすかったりします。

(5)、「レッツ・トライ」、「書いて伝え合おう」では、他教科やさまざまな日常生活の活用事例が示されており、手紙の書き方も低学年に設定しております。

2番の資料につきましては、第1学年の鉛筆の持ち方に箸の持ち方といった、こういうことで学習効果を高めています。1年生の4ページにあるのですがけれども、鉛筆の箸の持ち方が並んでイメージをしやすくなっています。それから、第3学年の左右のはらいの筆遣いで、穂先の写真

を使って動きを見せることで、力の入れ方や抜き方をわかりやすく伝えています。例えば、第3学年の18、19ページで、こちら左はらいと右はらいの書き方、力の入れ方、抜き方がわかりやすくなっております。

3番の表記・表現の(1)ですが、全学年書写の言葉として学習用語を明確に表記しています。文章が平易で簡潔であるとともに、運筆方法が伝わるように具体的な言葉で表現されています。

総括といたしましては、第2学年で算数のノート、第4学年で理科のノートの書き方を入れることで横書きの基本を身につけさせるとともに、他教科との関連を意識させ、学びの広がりを実感させる工夫がなされております。また、高学年についてはその学年で学習することを明確に示し、見通しを持って系統的に取り組める工夫がなされております。

続きまして、光村図書です。1番の内容につきましては、見開き2ページで学習が展開されています。「文字の書き方の原理・原則を考える」、「毛筆で確かめる」、「硬筆に生かす」の3段階で構成されています。年度末には、各学年のまとめ単元や、これまでの学習を確かめる「たいせつ」のまとめが工夫されています。例えば、5年生の一番最後の部分なのですが、「たいせつ」というのがそれぞれあるのですが、その背後にまとめということで、このようにわかりやすくポイントをまとめてあります。それから、6学年には全学年の学習内容が詰まった書写ブックが入っています。ちょうど6年生の18ページと19ページ。19ページのところに、少し小さい形で書写ブックという形で載せています。書写ブックが入っています。

(2)、目的に応じて文字を書く学習については、第5学年、書くときの速さや、第6学年、情報による文字の大きさとか、相手や目的が意識されています。

(3)、第3学年では「たしかめようシール」で穂先の向きや、始筆、送筆、終筆を確認でき、自己評価や相互評価に活用できるようになっています。第3学年以上では、学習の進め方が示され、見通しを持って学習に取り組めるようになっております。

(4)、硬筆のまとめが設定されており、毛筆で学習したことを硬筆で確かめることができるようになっております。

(5)、国語の教科書と連動した教材が設定されており、国語科での学習内容をさらに深めることができるようになっております。

続きまして、2番の資料につきましては、縦と横の線を引くときの手の動かし方や、字の形を動物の顔の形に当てはめて書くこと、写真や挿絵が効果的に挿入されています。左はらいの4方向の違いや、右はらいの筆遣いを明確にするため、動物の体の挿絵を使って表現しています。例えば、3年生の21ページなどに、猫が右はらいでぐっとここで突っ張って、その後すうっという形がイメージしやすくなっています。

続きまして、3番の表記・表現につきましては、(1)、2学年以上の全教材で「たいせつ」を設け、用語などを明確に示し、表記や用語は学年で段階的に設けつつ統一し、発達段階に応じて

わかりやすい文章で表現しています。

総括としましては、単にアルファベットを書くだけでなく、英語の名詞づくりなど日常生活とつなげることで、子どものわかりや広がりを意識させています。これは5年生の教科書にあります。第6学年の中央部の書写ブックを見まして、横書き、原稿用紙、手紙、はがき、新聞、ポスターの書き方によることで、日常生活とのつながりや他教科との関連を意識させる工夫がなされております。

続きまして、日本文教出版につきましては、まず1番の内容ですが、「考える」、「確かめる」、「いかす」というスリーステップで段階を踏みながら学習できるように学習課程が示されています。年度初めには、書写学習の進め方と各学年の目標が明記されてあります。

(2)、目的に応じて文字を書く学習について、第1、2学年では、絵日記や原稿用紙の書き方が本文（単元と単元の間）に掲載されています。第3学年以上には、原稿用紙や手紙の書式が巻末に集約して掲載されています。

(3)、「めあて」が単元ごとに設定してあり、提出された文字を手本と比べることで課題を知ることができるようになっています。

(4)、毛筆学習で習得した書写力を硬筆に生かせるように、「いかす」という設定があり、硬毛の一体化が図られています。

(5)、特に生活と書写コーナーでは、全学年、各教科と目的に応じた活用事例が示されています。

2番の資料につきましては、第1学年の裏表紙にある動物の絵を活用して動物の名前を書くことで、学習効果を高める工夫がなされています。それから、第4学年の文字のつり合いで、字形が整っているとはどういうことなのかを理解させるために、やじろべえの挿絵を効果的に用い、算数や理科的な仕組みを導入して学習効果を高めています。

3番の表記・表現につきましては、(1)、運筆方法がわかるように具体的な言葉で記され、児童の発達段階を考慮した言葉遣いや、文章が平易で親しみやすい表現になっています。

4番の総括といたしましては、第5学年の「国語の広場」では、提案文を書いて話し合う活動という意味で、地域とのつながりや防災意識など学びの広がりを十分に意識させています。また、第6学年の「生活と書写」では、手紙の書き方として、封筒の縦書き、横書き、はがきやエアメールの書き方などを扱い、日常生活につなげるとともに、学びの広がりを感じさせるものとなっております。

以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず初めに選定委員会としてどの教科書を推薦するか、ご説明をお願いします。

齋藤選定委員（増林小学校長） 少し今の質問の回答の前に、またおわび及び訂正のほうをお願いいたします。

出版社学図、略称学図を、今部会長のほうから「学校図書館」と言ってしまいましたが、正式には「学校図書」でございます。どうも申しわけございませんでした。訂正のほうをよろしくお願いいたします。

選定委員会では、協議内容、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が5種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍、67点、11番、学校図書、50点、17番、教育出版、61点、38番、光村図書、77点、116番、日本文教出版、56点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、77点の光村図書、67点の東京書籍、61点の教育出版を推薦いたします。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会では、ほかにどのような話題が出ましたでしょうか。

西垣内選定委員（明正小校長） 選定委員会の話題としては、大きく2つあります。

1つ目は、書写の入門期である1年生における指導についてです。文字を書くことに対し関心を高め、書く姿勢を身につけさせるためにどのような工夫をしているかが教科書を選ぶポイントになるのではないかという意見がありました。絵や図で関心を高めたり、鉛筆の持ち方を箸の持ち方と比べて掲載したり、体操をしてから姿勢を保つことを教えたりするなど、さまざまな工夫が見られました。

2つ目に、学校調査報告の集計結果を見て、光村を推す声が多いことについて話題となりました。現在、国語と書写の教科書は光村を使用していますが、国語の学習を生かして関心を持って書写の学習に取り組むことの効果や、手書きの魅力を伝えている内容について、特に話題になりました。

以上でございます。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 学校の調査報告書では、光村図書の他にどの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。
また、その主な理由について教えてください。

西垣内選定委員（明正小校長） 学校からの推薦では、光村図書を推薦する学校が最も多く21票、次いで東京書籍の9票、教育出版7票という結果でした。

推薦理由としましては、光村では身につけた力が生活の中でどのように生かされるのかをイラストから考えさせ、文字表現への関心、意欲を高めている。書く力を伸ばす6つの工夫がよくできている等の記載がありました。

東京書籍では、日本の伝統文化が意識されており、日常の文字に生かせるような工夫があり、指導しやすいや、「書写のかぎ」というインデックスがあり見やすい等の記載がありました。「書写のかぎ」とは、教科書の左側についている爪のことです。

教育出版では、1ページ当たりの文字数が適当であり、苦手意識を持つ児童に対応しやすい。調べ学習などのまとめ方やノート例などがあり、活用しやすい。日本各地のすぐれた伝統や文化、継承に努める人々をさまざまな事例をもとに紹介している等の記載がありました。

以上です。

吉田教育長 他にございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 少し教えていただきたいのですが、書写の教科書というのは基本的に書き込み欄が多いほうがよろしいですか。それとも余り関係ないですか。

西垣内選定委員（明正小校長） 書写の時間は、硬筆と毛筆の両方の時間がありまして、どちらかといえば毛筆の時間のほうが多いと思うのですが、硬筆については書き込みがあっても、もちろんそれで活用できますし、なくてもそれなりのことを別に使えば、それほど大きく問題はないかなと思われます。使う側の意識の差だと思われます。

以上です。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 よろしいですか。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

堀川委員。

堀川委員 選定委員さんの報告にもありましたが、初めに書く姿勢や鉛筆の持ち方を正しく身につけることは大変大事かと思いますが、どの社も丁寧に示されていると思います。初めの1年生の最初の段階で、光村さんの書写体操から書く姿勢に移っていく、その流れはとてもいいなというふうに感じました。鉛筆の持ち方の示し方も、すっきりした印象で見やすいなというふうに感じました。

また、3年生から毛筆が始まりますけれども、各社、点画の種類と書き方、穂先の向きや筆の動き、濃淡、多色で示したり、書き順ごとに色を変えたり、また矢印で示すなど、子どもたちが一目でわかるような工夫がされているなというふうに感じました。毛筆で始筆、送筆、終筆など大変難しいのかなというふうに思いますけれども、光村の「穂先ちゃん」というイラストが出てくるのですけれども、視覚的にも非常にわかりやすく、習いやすいかなと思います。また、選定委員さんのほうでもご説明ありましたけれども、猫のキャラクターが反りや折れやはらいなどに合わせて動いていっている動きがとてもわかりやすく、練習しやすいかなというふうに感じました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、今選定委員さんからも少し報告ありましたけれども、やはり何といっても国語との関連ということも結構委員さんも含めた現場の声としてもあるのかなというふうに思いました。国語の学習と連動したところがあるので、使いやすいのかなということを感じました。

また、光村さんはアルファベットとか、そのあたりについても積極的に取り入れていて、英語との関連も、先ほど英語のことも少し話題になりましたけれども、そういうことも図れるのかなというふうに思いました。

それと、余り分量が多くなると、学校は1学期の硬筆展、それから2学期末から3学期の毛筆、書き初め展がありますので、余り多くなり過ぎるとこちらが負担になってしまうとかあるのかなと。結構子どもたちの技能を高めるときに、展覧会は大きいではないですか。だから、そのあたりも含めると、バランスよくできるのかなということで、光村さんの声が多いのかなというふうに思うのですけれども。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

先ほど選定委員の説明のときもありましたけれども、光村の16ページ目の3つの部分から成る漢字ということで、同じような大きさで同じように書いてしまうとバランスが悪いのですけれども、猫の絵を配して、変えただけでいい字になったなという、こういう教科書があれば、私もも

う少しましな字が書けたのかなと思ったところですけども。

ついでに申し上げますけれども、東書では6年生の38ページ、「文字のかぎ」、教出で同じ6年生の1ページの「文字の歴史」、それから日文ではページ16の、6年生ですけども、「平仮名と片仮名ができるまで」、これで埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣の文字が引用されておりました。ついでですが、申し上げました。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、資料、表記・表現、総括について、まとめてご意見を伺いたいと思いますが、何かございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 各社とも書写で学んだことが他教科へどのようにつながるかを示していて、日常生活や今後の学習に生かせるように工夫されていると思います。

選定委員さんからのお話とかぶるかもしれませんが、東書は総合学習におけるポスター、また新聞づくりの書き方、学校図書は地理と関連させて都道府県を書こうで、名所などもあわせて学習できるようになっておりました。

教出は、かるたや活字などの生活の文字の中の文字の書き方を写真、資料とともに紹介し、発表資料やリーフレットなど活用例も示しています。

光村は、手紙や電子メール、掲示物の書き方を各学年に応じて取り上げておりました。

日文は、エアメールの書き方、原稿用紙の使い方など、学習や日常生活における各場面と目的に応じた書き方を、具体例を挙げて示していました。

先ほど野口委員さんのお話にもありましたけれども、光村さんでは4年生の20ページに国語の「白いぼうし」の内容でノート書き方などを記しておりまして、国語と共通した教科書に関連した学習ができるのではないかなと。同じような意見になりますけれども、感じました。

以上です。

吉田教育長 他に、また関連してでもいいですが、ございますか。他の観点での協議はございますか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより書写の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、渡辺委員、野口委員を指名します。

〔立会人立ち会の上開票〕

吉田教育長 それでは、発表いたします。

投票結果については、発行者の番号、発行者名、評価の合計について、登録番号順に読み上げます。

2 番	東京書籍	2 4 点
1 1 番	学校図書	1 9 点
1 7 番	教育出版	2 3 点
3 8 番	光村図書出版	3 0 点
1 1 6 番	日本文教出版	1 9 点

以上のとおり小学校書写の教科用図書は、38番、光村図書出版を採択することに決定しました。

◎休憩の宣告

吉田教育長 それでは、ここで暫時休憩といたします。

次の小学校の保健について、ただいま15時5分として、15時15分から再開することといたします。

休憩 午後 3時05分

再開 午後 3時15分

◎開議の宣告

吉田教育長 休憩前に引き続き会議を始めます。

小学校保健の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 保健の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

江村選定委員（桜井小校長） それでは、保健の教科書について説明させていただきます。保健は、全部で5者でございます。5者とも学習指導要領に即しました学習内容で本文がまとめられておりました。

観点1の内容は、(1)から(4)まででございます。(1)、知識及び技能が習得できるようにするための工夫といたしましては、5社とも使用している言葉は違いましたが、学習の進め方として、課題の把握からまとめ、振り返りまで学習課程が決まっております、スムーズな学習が進められ、知識、技能が習得できるように工夫をされておりました。(2)、(3)、(4)につきましては、東京書籍につきましては5, 6年生の教科書5ページをご覧ください。5ページにステップ1、6ページ、7ページにステップ2の1、2の2、7ページの下段にステップ3と学習を順次進めることにつきまして、思考力が育成されるようになっておりました。また、各項の冒頭で健康についての学習課題、6ページの一番上段、はてなマークになっているところでございます、のように学習の課題が明示されており、大変わかりやすくなっております。また、ガイドキャラが時事に向けた投げかけ、8ページ上段の矢印です、が書かれておまして、時事へ意欲的に取り組めるようになっておりました。また、運動やスポーツの意義や価値を示す資料が掲載され、他学年の内容と関連するマークも示されております。

大日本図書につきましては、課題を発見する、解決する、学習したことを生かすなど、さまざまな活動が取り入れられておりました。今のことにつきましては、各單元ごとに示されております。また、口絵では、児童が保健を学習する重要性を理解し、自分のこととして捉えられるような工夫がされております。小単元の導入の活動では、身近な題材や自分の生活について取り上げ、振り返ったり考えたりする活動が設けられています。また、運動と健康との関連につきまして、資料の中で示され、発展的な内容も掲載され、中学校での活動とのつながりもマークで示されております。

文教社につきましては、学習活動がスリーステップに分かれており、思考力等の育成ができ、習得した知識を活用する場面が設けられております。これまでの自分の生活を振り返ることで、学習の課題を自分事として捉えることができ、挿絵や図、表をもとに友達と話し合う活動が多く取り入れられ、主体的に学習に取り組む態度を育成することができます。また、運動と健康との関連について「やってみよう」で示されており、中学校とつながる傾向性が示されておりました。

光文書院につきましては、習得した知識を活用する内容として、「生かそう・伝えよう」があり、自分の生活に当てはめて考える活動が毎時間の最後に示されております。毎單元ごとに学習課題を自分のこととして捉え、主体的な課題解決学習が行えるようになっております。運動と健康との関連についてのコラムや発展的資料が示されており、さらに「広げよう・深めよう」で中学校で学習する関連内容が示されております。

学研につきましては、自分の体験から振り返り、本時の学習課題をつかむことができるように

なっております。また、学習したことを活用して目標を立てたり、アドバイスしたりする活動を通して自他の健康課題の把握と課題解決の筋道を実践に結びつけて考えられるようになっております。また、運動と健康についての関連については、口絵で視覚的に印象づけ、各章のコラムで具体的な考えが持てるように工夫され、「もっと知りたい・調べたい」では、中学校の学習につながる内容が示されておりました。

観点の2、資料についてでございます。5社とも共通として、写真やイラスト、図を多く用いられており、大変わかりやすく工夫をされておりました。また、専用のウェブサイトで動画を見ることができるため、教師が授業中にこれを活用することができます。発展的資料につきましては、東京書籍が学習内容ごとに半ページずつございました。大日本図書、文教社、光文書院、学研につきましては、発展資料は単元ごとに見開きページでございました。

続きまして、観点の3、表記・表現でございます。東京書籍につきましては、未習の漢字に振り仮名があり、初出だけでなく、必要な漢字全てにつけられており、重要な要望を確かめながら穴埋め問題ができるようにつくられておりました。また、独自に開発したユニバーサルデザイン教科書体が使用され、文節で改行され、読みやすくなっております。

大日本図書につきましては、漢字は前年度までに学習した漢字を使用し、配当学年以上の漢字で、漢字で表記したほうがわかりやすい語彙は見開きごとに振り仮名がつけられております。また、読みやすい位置での改行、ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインにも配慮がございました。

文教社につきましては、漢字は該当学年までに配当された教育漢字を使用し、配当漢字以外でもわかりにくい場合及び一般的に読ませたい、読んでほしいと思われる漢字に振り仮名を使用しておりました。

光文書院につきましては、当該学年配当漢字や専門用語、当該学年以降に学習する漢字につきましては、初出だけでなく、都度振り仮名をつけ、特に押さえない基本的、基礎的な事項は太字や色文字で目立たせてあります。カラーユニバーサルデザインにも配慮がございました。

学研につきましては、未習の漢字については振り仮名があり、重要語句は赤字で示されてございます。用語について詳しく解説され、言語能力の育成につながる情報も掲載がございました。ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインに配慮がございました。

観点の4、総括でございます。東京書籍につきましては、ステップ1、「気づく・見つける」を活用し、日常生活から健康についての課題に気づいたり、課題を見つけたりできるようになったり、他教科との関連は小扉や本文ページで示されております。また、今日的な健康課題に対応した資料が掲載されておりました。

大日本図書につきましては、学習ゲームで学習課題が身の回りの生活に関連があることに気づけるようになっていたり、他教科、他学年との関連も示されております。また、オリパラ教育や

食育、多くの現代的な諸課題を通し、科学的に学べるように工夫されております。

文教社につきましては、日常生活から学習課題を設定できるように、チェックシートやブレインストーミング等が示されており、他教科や日常生活での活用を図れるよう具体的な場面が考えられるように示されております。

光文書院につきましては、小扉にこれから学習する内容がストーリー形式で示されており、学習内容を身近に感じられたり、学年や中学校との関連、他教科との関連が示されておりました。

学研につきましては、日々の生活行動を健康との関連から捉えられるようになっていて、振り返りやチェック内容が掲載されたりしてありました。章末の「ふり返る・深める・つなげる」が生活との関連を示す内容となっております。

以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず初めに選定委員会としてどの教科書を推薦するか、ご説明をお願いします。

齋藤選定委員長（増林小校長） 選定委員会では、協議内容、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が5種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍、76点、4番、大日本図書、49点、207番、文教社、50点、208番、光文書院、69点、224番、学研教育みらい、55点でした。本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、76点の東京書籍、69点の光文書院、55点の学研教育みらいを推薦いたします。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますか。

堀川委員。

堀川委員 選定委員会ではどのような話題が出ましたでしょうか。

江村選定委員（桜井小校長） 選定委員会では、教科書の中に書き込みながら学習できるかが話題となっております。保健は、3、4年生で8時間程度、5、6年生で16時間程度の時数が計画されております。各社とも教科書の中に書き込めるスペースがあり、後に児童が学習したことを振り返るのに教科書一冊あれば要点がわかるようなつくりになっているという話をしました。

以上でございます。

吉田教育長 よろしいですか。

堀川委員 はい。

吉田教育長 他にございますか。

進藤委員。

進藤委員 学校の調査報告書ではどの教科書会社の推薦が多かったでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

江村選定委員（桜井小校長） 学校からの推薦では、東京書籍を推薦する学校が最も多く19票、次いで光文書院が14票、学研が9票という結果でございました。

推薦理由といたしましては、東京書籍では写真やグラフが見やすくわかりやすいと感じた。けがの防止や病気の予防において効果的な写真が多く、指導しやすい教科書である。「気づく」、「調べる」、「深める」、「まとめる」の学習内容が統一されているとの意見がありました。

また、光文書院では、学習の流れがつかみやすく、ケーススタディーなど工夫した学習が盛り込まれており、主体的な学習が行える。日常生活と結びつけて考えられる等の意見がございました。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますか。

荒木委員。

荒木委員 今年も急に暑くなりまして、近年熱中症のケースをよく耳にしますけれども、熱中症については入れられていますでしょうか。

江村選定委員（桜井小校長） 熱中症につきましては、各社とも掲載がございました。「けがの手当て」という單元の中で、予防法と対処法などについて、「発展」として記されておりました。

以上です。

吉田教育長 他にございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 3年生、4年生の単元で、3年生のほうは生活と健康、4年生のほうは体の発育、発達というのが単元としてあると思うのですがけれども、この体の発育、発達のところで、全ての教科書において思春期の体の変化というのが出ているのですけれども、そこら辺について何か選定委員会のほうで話題はありませんでしたか。

江村選定委員（桜井小校長） 話題としては、特には挙がらなかった事項でございます。

渡辺委員 そうですか、わかりました。よろしいですか。

吉田教育長 どうぞ。

渡辺委員 2014年の文科省の調査によりますと、一定の割合で性同一性障がいのお子さんがいるというデータ、調査報告があるのですけれども、その点についての何か配慮とか、そういうような観点からは、特には見ていらっしやらないでしょうか。

吉田教育長 特に話題に上っていなければ。

江村選定委員（桜井小校長） 申しわけありません。

渡辺委員 わかりました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容について意見はございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 どの教科書も、子どもが主体的に学んでそれを生活に生かす工夫があるというふうに変定委員さんのほうからお話があったように、そのとおりになっていると思いました。例えば、おもしろいなと思ったところと言いますと、大日本図書さんのところは、3年生で「生活とけんこう」、4年生で「育ちゆく体」という形の、単元は2つしかないのですが、それについてまず1ページ開きますと、必ず見開き1ページのイラストがあって、そこから気づきを発見させるということで、子どもたちに興味関心を持たせるというのが3、4年生、5、6年生の教科書でもあります。まず、ここから入ってくるのがおもしろいなというふうに思いました。

それから、東書さんなのですが、東書さんに至っては右ページから章が始まっているのですね、いつも。そして、そこで何か気づくことはないかなということでページをめくって、2ページ目から学習の課題に入っていくということで、ここもやはり主体的に学習に入ることができるなというふうに感じました。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 では、先ほど学習過程がわかりやすいという話がありましたけれども、現場のほうから上がってきている声の中には、何かワークシートになっているものがかかり、使いやすいのではないかとということでしたが、東書のほうですね、かなり書き込みのスペースが充実しているので、そのあたりが現場の先生のほうからは取り組みやすいのかなと。そして、あわせて振り返りもという話がありましたけれども、そういったよさが、きっと東書のほうが支持が多くなっている理由かなというふうに思いました。どこの会社も同じように学習過程を組んでやっているのですが、特にそんなことを感じました。

以上です。

吉田教育長 他にございますか。

なければ私のほうから、本市ではがんが市民の疾病による死亡の最大の原因になっていますが、したがって、その予防と早期発見に寄与していくことなどについてうたっている越谷市がん対策推進条例、これを定めております。がんについては、生活習慣病の一つとして各社とも取り上げているわけですが、東書では5、6年の58ページ、ここには円グラフで、がんが29%と示されておりますが、さらに62ページ、ここではがんを防ぐための新12カ条ということで、ここでも取り上げております。さらに、64ページ、ここでもたばこの関係で、がんによる死亡の危険性ということでグラフが示されております。資料的にも視覚的にも大きく取り上げているなというふうに思いました。

他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 そうしましたら、先ほど質問したことに関連するのですが、少し前に小学校の児童の方で、男子の児童さんでも、やはり少し裸になるのはということで、つなぎの水着を許可してもらえないかというようなことがニュースになっていたかと思うのですが、そういうところを考えると、この今、先ほど申しました思春期の体の変化のところを見てみますと、光文書院さんなんかは男女のつなぎであつたりとか、あとは学研さんなんかは体育着という形で男女の違いに気づかせるとか、あとは文教さんなんかはイラストでというような形だったりとか、その辺の表記が適切なのではないかなというふうに個人的には思いました。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 先ほど熱中症のお話が少し出ましたが、最近話題になるAEDについても各社掲載されておりますけれども、東書さんの46ページ、5、6年生の、すごく手順が詳しく載っていて、小学生でもできるようになるのではないかなというふうに感じました。詳しく載っているなと思いました。

また、光文書院さんの5、6年生の15ページにスマートフォンやタブレットの使用時間と生活リズムについて掲載しておりまして、現代の子どもたちの大きな問題でありまして、必要な学習かなというふうに感じました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、資料、表記・表現、総括について、まとめてご意見を伺いたいと思います。

何かございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 やはり選定委員さんからのお話もありましたように、いずれの教科書も児童が理解しやすいようなページの構成になっているという気がいたしました。

以上でございます。

吉田教育長 野口委員。

野口教育長職務代理者 資料の件なのですけれども、東書の40ページに、いろんな教科書にも載っているのですけれども、また越谷の2013年の竜巻の写真も掲載されていて、避難訓練等もやはり学校でやっているものですから、こういったところも活用できるなというふうに思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 各教科書に、来年開催されるオリンピック・パラリンピックとの関連でアスリートの言葉がありまして、運動と健康の大切さがアスリートの言葉から発せられるということで、子どもたちの関心を高めているなと思いました。

吉田教育長 よろしいですか。

他の観点での協議はございますでしょうか。どちらもよろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他にないようですので、これより保健の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、堀川委員、進藤委員を指名いたします。

〔立会人立ち会の上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告をいたします。

投票結果については、発行者の番号、発行者名、評価の合計点について、登録番号順に読み上

げます。

2 番	東京書籍	3 0 点
4 番	大日本図書	1 9 点
2 0 7 番	文教社	1 8 点
2 0 8 番	光文書院	2 7 点
2 2 4 番	学研教育みらい	2 1 点

以上のとおり小学校保健の教科用図書は、2 番、東京書籍を採択することに決しました。

中学校保健体育の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 保健体育の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

江村選定委員（桜井小校長） では、保健体育の教科書は4者でございます。

観点の1、学習指導要領の教科の目標とのかかわりにつきましては、東京書籍につきまして、小中高の内容の体系化が明記されており、「今日の課題」と「キーワード」で学習の見通しが持てるように工夫されております。体育分野の体育理論では、保健分野とのリンクも明確で、年齢に応じたスポーツとのかかわり、心の成長と運動のかかわりなどがよくわかるように書かれております。保健分野では、運動や健康、安全に関する内容を現象のみならず、科学的に理解させるための資料や、習得した知識を活用する学習活動が掲載されております。

大日本図書につきましては、巻頭に保健体育で学習することがどのように生活に役立っていくのかが確認でき、章の初めに学習する内容、目標を明確にできるようになっております。体育分野の体育理論では、章末資料が充実し、生涯にわたって運動に親しむ方向、オリンピックエピソードなど、生徒の興味を引くものが多くありました。保健分野では、日常生活で起こり得る事例が設定され、学習すべき内容を予見したり、推論できる工夫がされております。

大修館書店につきましては、巻頭に体育とのつき合い方、健康に貢献した日本人の紹介、1単位時間の学習の動機づけ等導入発問が設けられております。体育分野の体育理論では、チャレンジのコーナーで生涯スポーツにつながる野外活動やソーシャルスキル等実践力が育まれるものになっております。保健分野では、各項の終わりに「学習のまとめ」が設けられ、学んだことを振り返るとともに、実生活につなげて考える欄が設けられております。

学研につきましては、指導内容の系統性がわかりやすくなっており、心と体を一体として捉えるという観点から、体育分野と保健分野の関連が図られております。体育分野の体育理論では、さまざまな話題のコラムが多く、スポーツを身近に感じ、生涯にわたって親しむ方向の支援となります。保健分野では、章末でその章で学んだことを深めることができます。

観点2、内容では、東京書籍につきましては、小扉に小中高の連続性についての説明、他教科

や他の単元との関連が表記されており、系統性が捉えやすくなっております。章末には、確認の問題、活用の問題があり、基礎・基本の定着が図りやすく、読み物としての発展した内容も掲載されております。

大日本図書につきましては、教科内、体育と保健、保健と保健の系統性について「リンク」のコーナーがあり、確認しやすくなっております。章末には「トピックス」、「学習のまとめ」、「学習の要点」があり、学習内容の確認ができるよう工夫されておりました。

大修館書店につきましては、現在の問題に絡めた内容や、日常生活で疑問に感じることを「コラム」として表記されております。章末には、「トピック」、「学習のまとめ」が掲載されており、基礎・基本の定着が図りやすく、話し合い活動などで深めるのに適した内容や、書くことで学びを深めるコーナーがありました。

学研につきましては、小扉に小中高の連続性についての説明が掲載されております。章末には、「探求しよう」、「章のまとめ」が掲載されており、基礎・基本の定着が図りやすく、毎時間の学習の目標とキーワードを確認し、「ウオームアップ」で導入をしていくことで授業の見通しが持てるようになっておりました。

観点の3、資料では、東京書籍につきましては図表、写真等が多く掲載され、視覚的理解が図りやすくなっております。「クール」、「コール」というキャラクターが登場し、生徒にとって親しみやすく工夫されております。

大日本図書につきましては、図、表、写真が多く掲載され、特に写真の資料が多く、視覚的理解が図りやすくなっております。ページの下に「ミニ知識」のコーナーがあり、生徒が興味を持てるように工夫されております。

大修館書店につきましては、図、表や写真が多く掲載されております。単元の初めに学習のキーワードがあり、確認してから学習に入ることができるよう工夫されております。

学研につきましては、図、表や写真が多く掲載され、資料の活用を促進するコーナーがちりばめられております。また、章の初めに内容に関する人物、関連する仕事の説明が写真とともに掲載されておりました。

観点の5、表記・表現については、東京書籍につきましては、記号が大きく見やすく、わかりやすい言葉で示されております。写真やイラストが多く、配色も見やすく工夫され、ユニバーサルデザインフォントを取り入れております。

大日本図書につきましては、重要な語句について章末に解説が掲載されていたり、授業中の仲間への声かけが紹介されていたり、工夫が見られます。グラフや資料がはっきりした配色でまとめられ、重要な語句は太字で見やすく、資料の解説や補足が目立つようになっております。

大修館書店につきましては、グラフや図に読み取らせたいポイントが吹き出しで記載され、工夫されております。重要な語句は太字で見やすく、ユニバーサルデザインに配慮されております。

学研につきましては、教科書を開くと本文に目が行くようなレイアウトになっており、文中に資料を活用するマークが効果的に入っております。重要な語句が太字で掲載されており、カラーユニバーサルデザインに配慮されております。

観点の5、総括でございます。東京書籍につきましては、読み物やクイズを設け、生徒により興味関心を持たせるよう工夫されております。「考えてみよう」を活用し、学習した内容を踏まえ討議したり、キーワードの解説が巻末にまとめられているので自宅学習にも対応しており、知識の習得だけでなく、生徒が身につけた知識を実生活に生かすことができるよう工夫されております。

大日本図書につきましては、1単位時間ごとに「学習を活かして」の中で学習内容の振り返りができるよう工夫されており、章末の「重要な言葉」を活用して学習を充実させることができます。課題をつかんで学習できるよう、1単位時間ごとに「今日の学習課題」が明記されており、資料やイラスト、写真を効果的に使用し、生徒の主体的な学習を引き出せるように工夫されております。

大修館書店につきましては、関連するホームページのURLが見開きの右下に掲載されており、インターネットを利用して発展的な学習ができるようになっております。「活用」や「学習のまとめ」では、自分の考えを整理しながらまとめて記入したり、学習内容を復習したりすることができるように工夫されております。

学研につきましては、「章のまとめ」で用語の確認20があり、学習内容の振り返りや、学習内容を生かして考える学習ができるよう工夫されております。「探求しよう」では、調べ学習や話し合い活動を取り入れ、言語活動の充実を図っております。また、防災に関するページを多く設け、さまざまな自然災害について生徒の意識を高めることができるようになっておりました。

以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず初めに選定委員会としてどの教科書を推薦するか、ご説明をお願いします。

齋藤選定委員長（増林小校長） 選定委員会では、協議内容、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員15名全員が4種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。75点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍、53点、4番、大日本図書、45点、50番、大修館、50点、224番、学研教育みらい、74点でした。本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、74点

の学研教育みらい、53点の東京書籍、50点の大修館を推薦いたします。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますか。

荒木委員。

荒木委員 現在、学研教育みらいを採択して4年間使用しておりますが、選定委員会では各学校からの実績等の話題でどのようなことがありましたでしょうか。

江村選定委員（桜井小校長） 各学校からの報告書を見ますと、市内15校の中学校が現在使用している学研教育みらいが適正であると答えております。

理由といたしまして、写真や資料が充実しており、授業で使いやすいというものが多かったです。また、1単位時間の中で話し合い等の視点が明確になっており、知識を活用できる学習を行いやすいというものがありませんでした。

以上です。

吉田教育長 よろしいですか。

他にございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 現場の先生方が現在使用していて、何か使いづらいというようなご意見はございますでしょうか。

江村選定委員（増林小校長） それは、特にございませんでした。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございませんですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

中学校教科用図書は、前回平成27年度の採択時と同じ検定本から採択することになりました。したがって、協議については前回採択した教科用図書を使用してきてどうであったかということ踏まえてということになりますが、まず現在使用している保健体育の教科用図書についてご意見をお願いいたします。

私のほうから、教科の狙いから考えて、健康安全については実践的に理解することが重要であるということになりますが、その点からすると、身近な生活の中で学習課題を発見し、解決するためにどうすべきかを考える過程を通して、その大切さに気づくことが大事であるとされております。ちなみに学研では、資料という形で対応例を示し、これは29ページでしょうか、とか63ページなんか見ると示されておりますが、実習というのがあるのですけれども、実習では実践、練習を促す。これは、23ページとか78ページを見ると出てくるかと思うのですけれども、また「活

用しよう」、これはほぼ1単位時間に毎回出てくるのですかね、ここでは実生活に置きかえて考えさせようというふうになっております。さらに、「章のまとめ」というところで、これは33ページになるのでしょうか、実生活への活用を促しております。といったように狙いに沿った工夫がされていると思いますが、こうした点から報告書には、実践的な事例が示されているとか、練習例が多く示されているとか、あるいは1時間の流れが明確でポイントが把握しやすいなどが挙げられているのかなというふうに思います。

他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 適正と答えた理由の中で多かったのが、図やグラフなどの資料が豊富で生徒が理解しやすく、教師が教えやすい教科書であるというものです。保健体育の教科書を使う機会というのは限られていますから、生徒が興味を持って取り組めて学習しやすいものであるということが必要であると思いますが、学研教育みらいの教科書は、複雑な内容でもシンプルでわかりやすいという印象がありました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 今のご意見につけ足しとしましては、使う機会が限られている教科書だからこそ、先生方の負担も考えますと、使いなれている教科書を継続して使うことは大変意味のあることではないかと思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 今、グラフなどの資料が豊富でということでありますけれども、全くそのとおりだと思うのですが、例えば学研の18、19ページあたり、性とどう向き合うかという内容ですけれども、このあたりの内容につきましても、今のインターネットとかSNSの内容にも触れておりまして、大変先生方も指導しやすいのではないかなというふうに思いました。ある意味実践的な内容が載っているかなというふうに思いました。

それから、しつこいようですけれども、学研さんのほうは69ページに越谷の竜巻のこととか、それから71ページには、その竜巻からの避難行動についても詳しく書いてありますので、このあたりも越谷は被害を受けましたので、意識づけとしても効果的なのかなというふうに思いました。

以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他になれば、現在使用している以外の、その他の教科用図書についてご意見を願いたいします。

進藤委員。

進藤委員 東京書籍が、図や表、グラフが大変充実しているなと思いました。読み物やクイズのある親しみやすいものになっています。事例などを用いたディスカッションやブレインストーミングなどの学習方法が取り入れられて、主体的に学習に取り組むことがなされていると思いました。以上です。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 大修館につきましては、写真や図が大きく、生徒が興味を持って取り組める構成になっていると思います。それと、各單元においての初めのクエスチョンのところなのですが、ここが例えば100ページのところだと「鼻血が出たときの応急手当て」で、「鼻の穴にティッシュを詰めるというのは誤りです。それはなぜでしょう」というように、一つ小学校のときとは違って突っ込んだ内容が質問として挙がっていて、生徒たちも興味を持って取り組めるのではないのでしょうか。

以上でございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他に協議したい内容はございますか。こちらよろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより保健体育の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、野口委

員、そして堀川委員を指名いたします。

〔立会人立ち会の上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号、発行者名、評価の合計点について、登録番号順に読み上げます。

2 番	東京書籍	2 3 点
4 番	大日本図書	1 8 点
5 0 番	大修館書店	2 1 点
2 2 4 番	学研教育みらい	3 0 点

以上のとおり中学校保健の教科用図書は、224番、学研教育みらいを採択することに決しました。
以上をもちまして予定していた全ての種目について審議が終了いたしました。

これより第37号議案「令和2年度使用小中学校教科用図書の採択について」を採決いたします。

採択する教科用図書を種目名、発行者名の順に読み上げます。なお、発行者番号及び教科用図書名については省略いたします。

令和2年度使用小学校教科用図書として

国語、光村図書。

書写、光村図書。

社会、東京書籍。

地図、帝国書院。

算数、東京書籍。

理科、学校図書。

生活、学校図書。

音楽、教育芸術社。

図画工作、開隆堂。

家庭、開隆堂。

保健、東京書籍。

英語、三省堂。

道徳、学研教育みらい。

それから、特別支援教育の国語、算数、音楽を採択いたします。

なお、特別支援教育の国語、算数、音楽の教科用図書については、いずれも文部科学省著作でございます。

次に、令和2年度使用中学校教科用図書として

国語、光村図書。

書写、光村図書。

社会（地理的分野）、東京書籍。

社会（歴史的分野）、東京書籍。

社会（公民的分野）、東京書籍。

地図、帝国書院。

数学、東京書籍。

理科、学校図書。

音楽（一般）、教育芸術社。

音楽（器楽合奏）、教育芸術社。

美術、開隆堂。

保健体育、学研教育みらい。

技術家庭（技術分野）、開隆堂。

技術家庭（家庭分野）、開隆堂。

英語、三省堂。

それから、特別支援教育の国語、数学、音楽を採択といたします。

なお、特別支援教育の国語、数学、音楽の教育用図書については、いずれも文部科学省著作で
ございます。

以上の教科用図書を採択する旨、決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 それでは、ご異議ないものと認めまして、本案は以上のとおり決定いたしました。

他に何かございますか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ以上といたします。

最後に、次回の教育委員会会議の日時でございますが、8月の22日木曜日、午前10時から教育
委員会室で開催したいと存じますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 では、そのようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

◎閉会の宣告

吉田教育長 以上をもちまして閉会といたします。
お疲れさまでした。

(午後 4時16分)

この会議のてん末記載に相違ないことを証するため、署名する。

教 育 長

吉 田 茂

委 員

野 口 久 男

委 員

塚 川 脩 子

委 員

進 藤 秀 子

委 員

荒 木 明 子

委 員

渡 辺 律 子

書 記

教育総務課副課長

並 木 智 史